

医療保険制度における 新型コロナウイルス感染症の影響について

医療費の動向 令和2年4月～11月

医療費の動向（メディアス）の月次報告については、通常、厚生労働省のホームページ上で公表しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により患者の受診動向等に大きな変化があったと考えられることから、令和2年10月分までその一部をご報告したところである。11月についても、受診動向等の更なる変化を注視する観点から、その一部を報告する。

- 令和2年4月～11月の医療費の伸び（対前年同月比、以下同じ）を見ると、4月に▲8.8%、5月に▲11.9%と10%程度の減少となったが、6月以降、ゆるやかな回復傾向となり、10月は+1.5%とプラスとなったものの、11月は▲3.8%と減少。
- 診療種別では、11月になり、いずれの診療種別もマイナスとなった。
- 未就学者、医科診療所の小児科や耳鼻咽喉科は11月に減少幅は再拡大、都道府県間のばらつきは前月までと同程度。

（参考）診療種別 医療費の伸び率（対前年同月比）

（単位：%）

	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
総計	-8.8	-11.9	-2.4	-4.5	-3.5	-0.3	1.5	-3.8
入院	-6.5	-10.1	-4.0	-4.3	-3.0	-0.2	1.0	-2.3
入院外	-13.7	-15.4	-2.6	-5.8	-4.7	-1.0	0.4	-5.8
歯科	-15.3	-15.8	-0.2	-4.0	0.9	5.0	9.6	-1.0
調剤	-3.1	-8.7	0.1	-3.6	-5.3	-1.7	1.1	-5.6

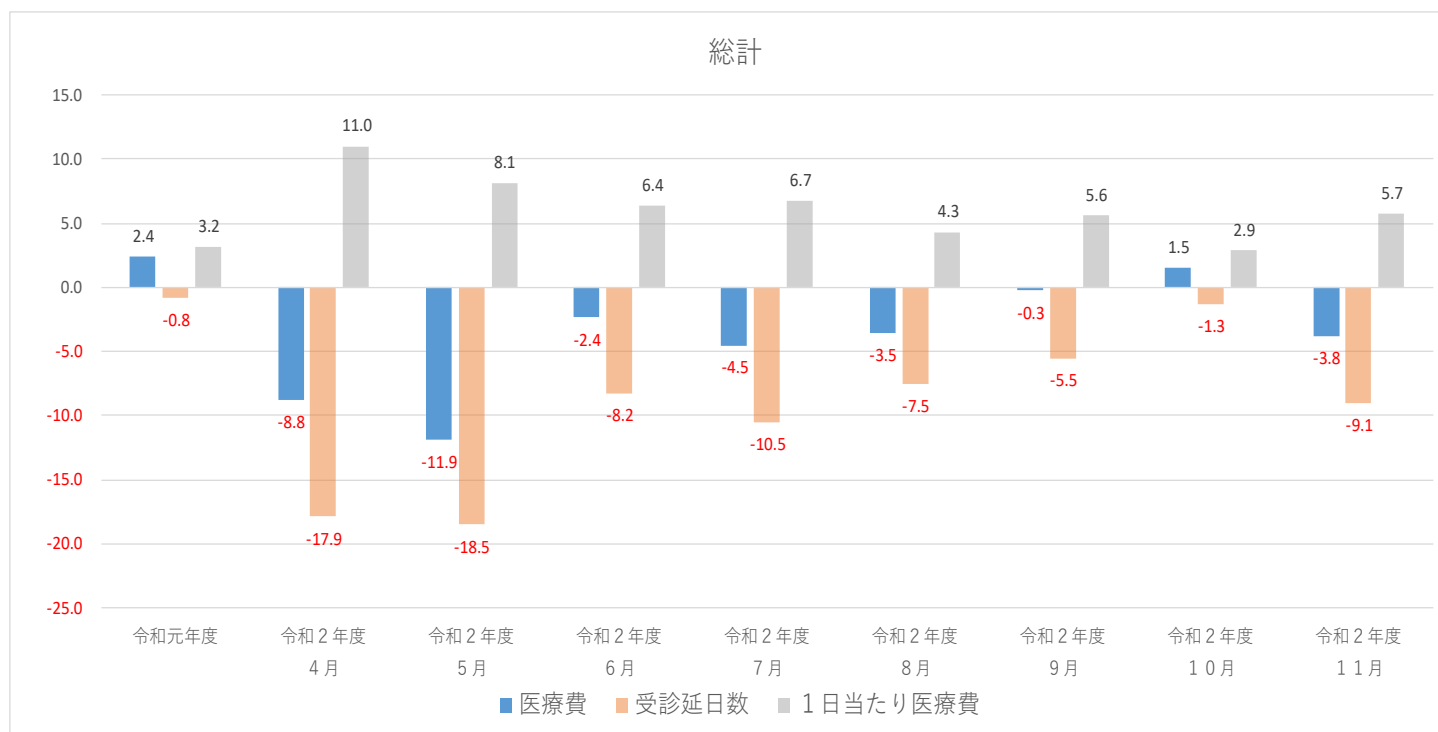
医療費の動向 令和2年4月～11月 ①概算医療費

- 令和2年4月～11月の医療費の伸び（対前年同月比、以下同じ）を見ると、4月に▲8.8%、5月に▲11.9%と10%程度の減少となったが、6月以降、緩やかな回復傾向となり10月には+1.5%のプラスとなったが、11月には▲3.8%の減少となった。
- 受診延日数の伸びは4月～5月は▲18～19%程度減少、6月～8月は▲7～10%で推移し、9月は▲5.5%、10月は▲1.3%と減少幅は小さくなったが、11月は▲9.1%と減少幅は拡大。
- 1日当たり医療費の伸びは4月～11月を通じてプラスで推移。

■ 総計の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
医療費	2.4	-8.8	-11.9	-2.4	-4.5	-3.5	-0.3	1.5	-3.8
受診延日数	-0.8	-17.9	-18.5	-8.2	-10.5	-7.5	-5.5	-1.3	-9.1
1日当たり医療費	3.2	11.0	8.1	6.4	6.7	4.3	5.6	2.9	5.7



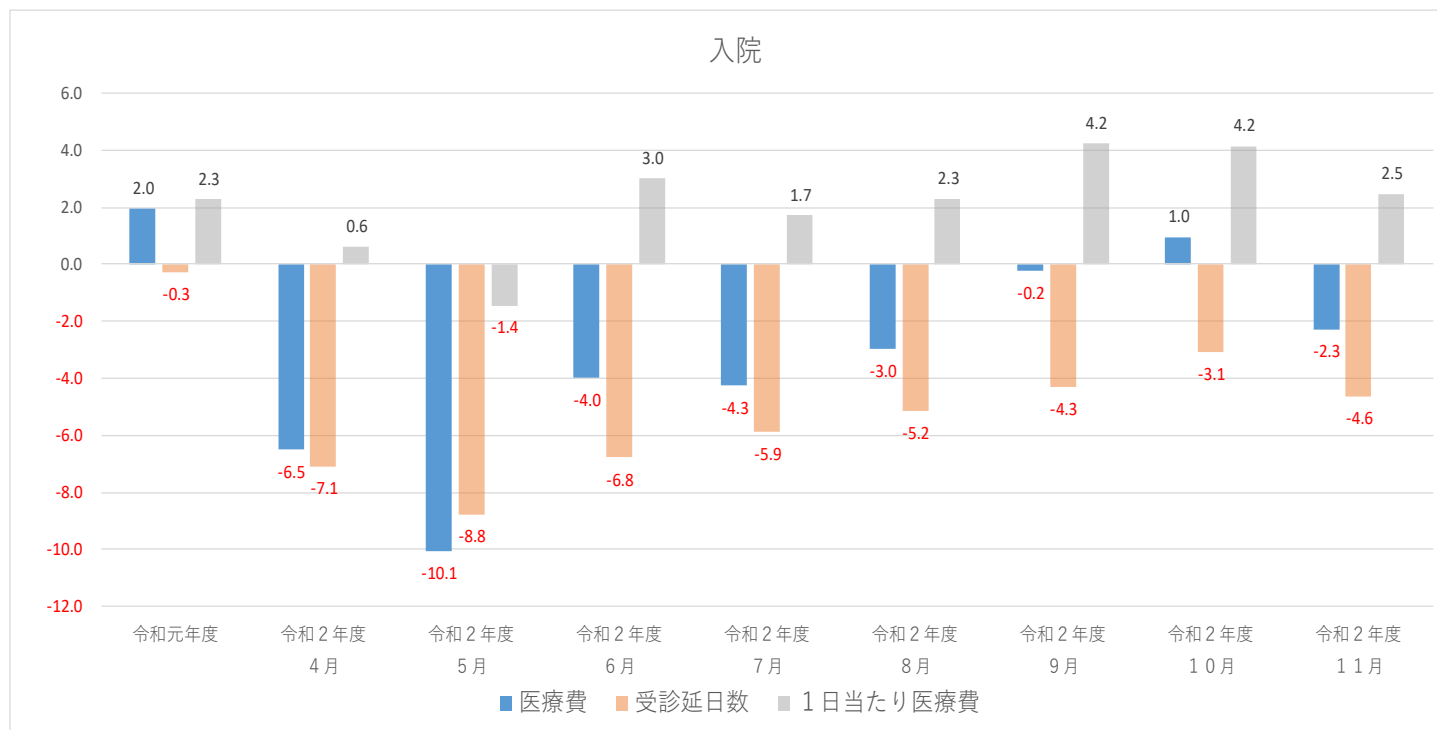
医療費の動向 令和2年4月～11月 ②-1 診療種別（入院）

- 入院医療費の伸び率は、11月には▲2.3%と再びマイナスとなった。
- 受診延日数の伸びは7月以降は▲3～6%で推移。
- 1日当たり医療費は5月のみ減少し、その後は+1～4%程度で推移。

■ 入院の伸び率（対前年同月比）

（単位：%）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
医療費	2.0	-6.5	-10.1	-4.0	-4.3	-3.0	-0.2	1.0	-2.3
受診延日数	-0.3	-7.1	-8.8	-6.8	-5.9	-5.2	-4.3	-3.1	-4.6
1日当たり医療費	2.3	0.6	-1.4	3.0	1.7	2.3	4.2	4.2	2.5



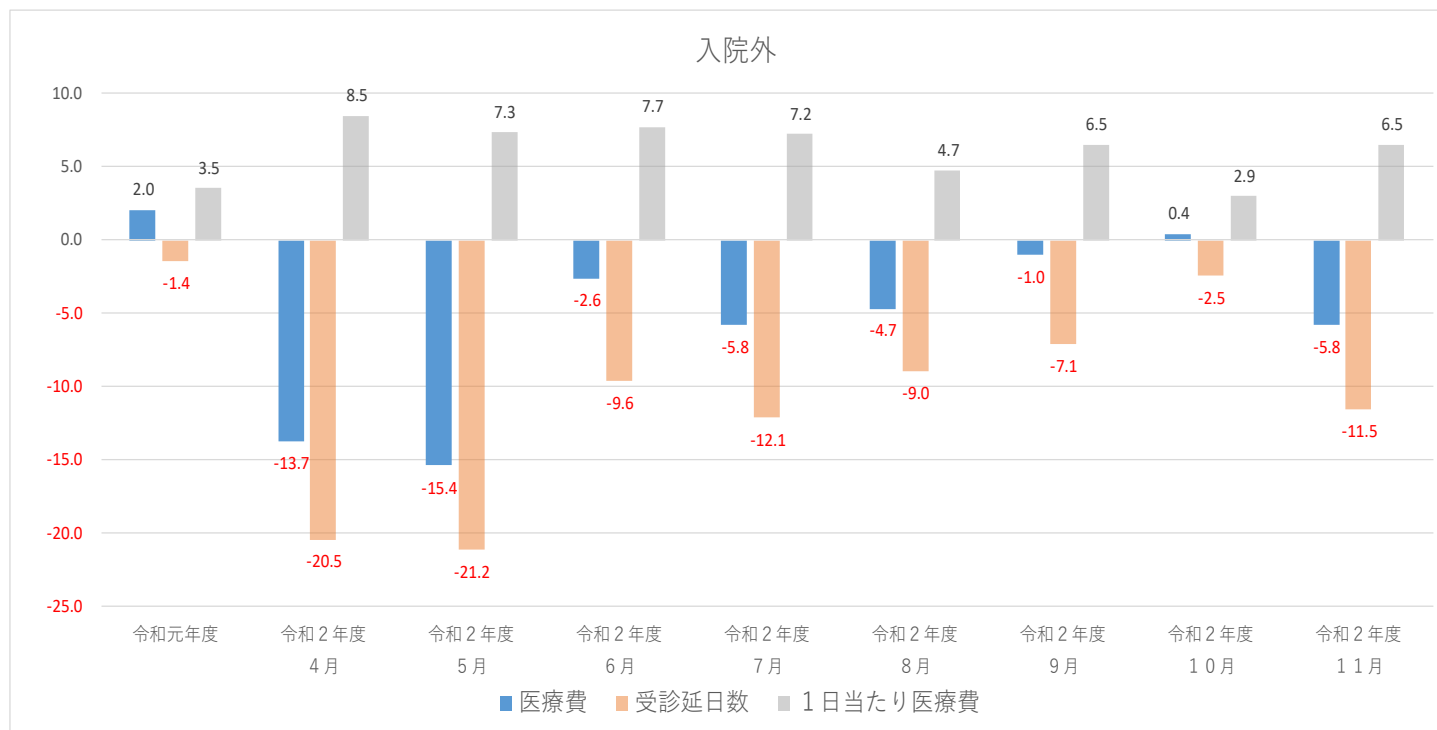
医療費の動向 令和2年4月～11月 ②-2 診療種別（入院外）

- 入院外医療費の伸び率は、11月には▲5.8%と再びマイナスとなった。
- 受診延日数は4月～5月は2割を超える減少、7月以降は緩やかな回復傾向にあったが、11月は再び▲11.5%と縮小。
- 1日当たり医療費は4月～11月を通じてプラスで推移。

■ 入院外の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
医療費	2.0	-13.7	-15.4	-2.6	-5.8	-4.7	-1.0	0.4	-5.8
受診延日数	-1.4	-20.5	-21.2	-9.6	-12.1	-9.0	-7.1	-2.5	-11.5
1日当たり医療費	3.5	8.5	7.3	7.7	7.2	4.7	6.5	2.9	6.5



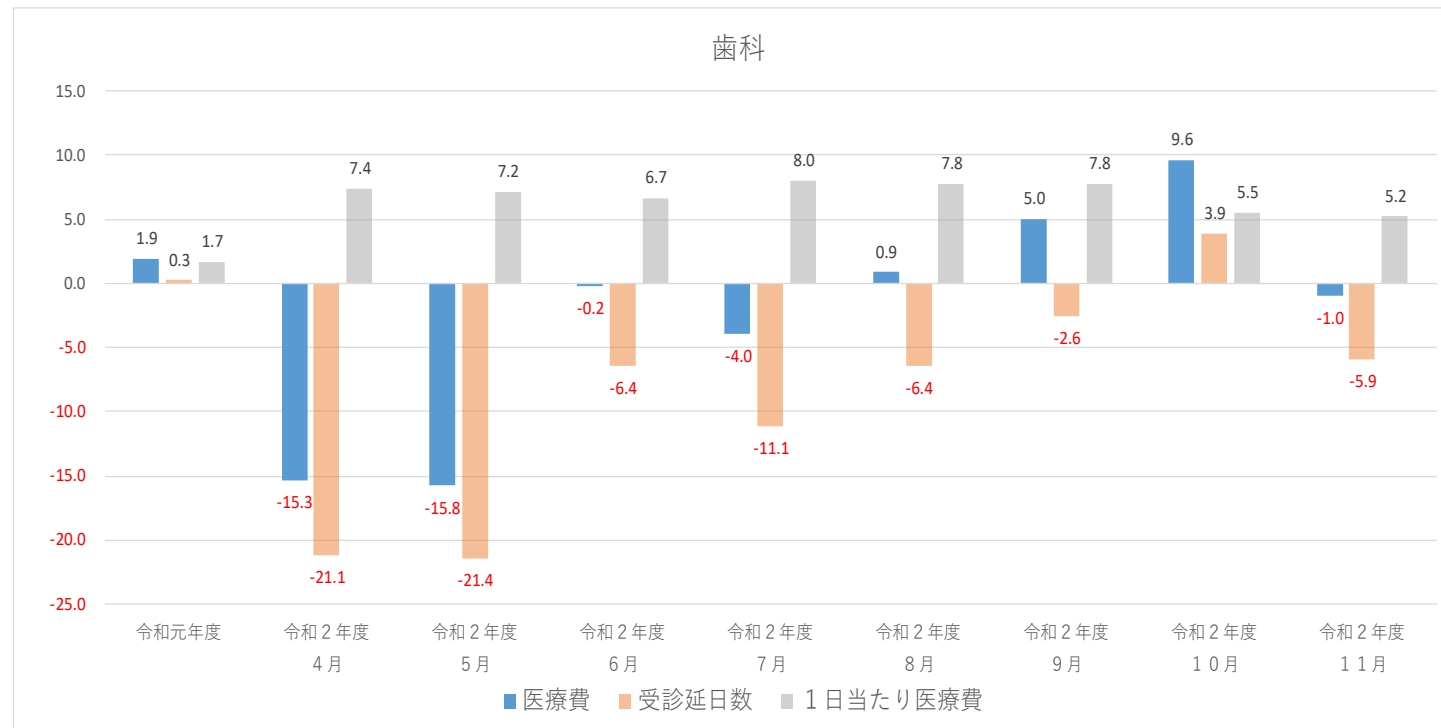
医療費の動向 令和2年4月～11月 ②－3 診療種別（歯科）

- 歯科医療費は、8月～10月はプラスとなっていたが、11月は▲1.0%のマイナスとなった。
- 受診延日数は、8月以降減少幅が小さくなり、10月は+3.9%のプラスとなったが、11月にはマイナスとなった。
- 1日当たり医療費は4月～11月を通じて+5～8%程度の増加。

■ 歯科の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
医療費	1.9	-15.3	-15.8	-0.2	-4.0	0.9	5.0	9.6	-1.0
受診延日数	0.3	-21.1	-21.4	-6.4	-11.1	-6.4	-2.6	3.9	-5.9
1日当たり医療費	1.7	7.4	7.2	6.7	8.0	7.8	7.8	5.5	5.2



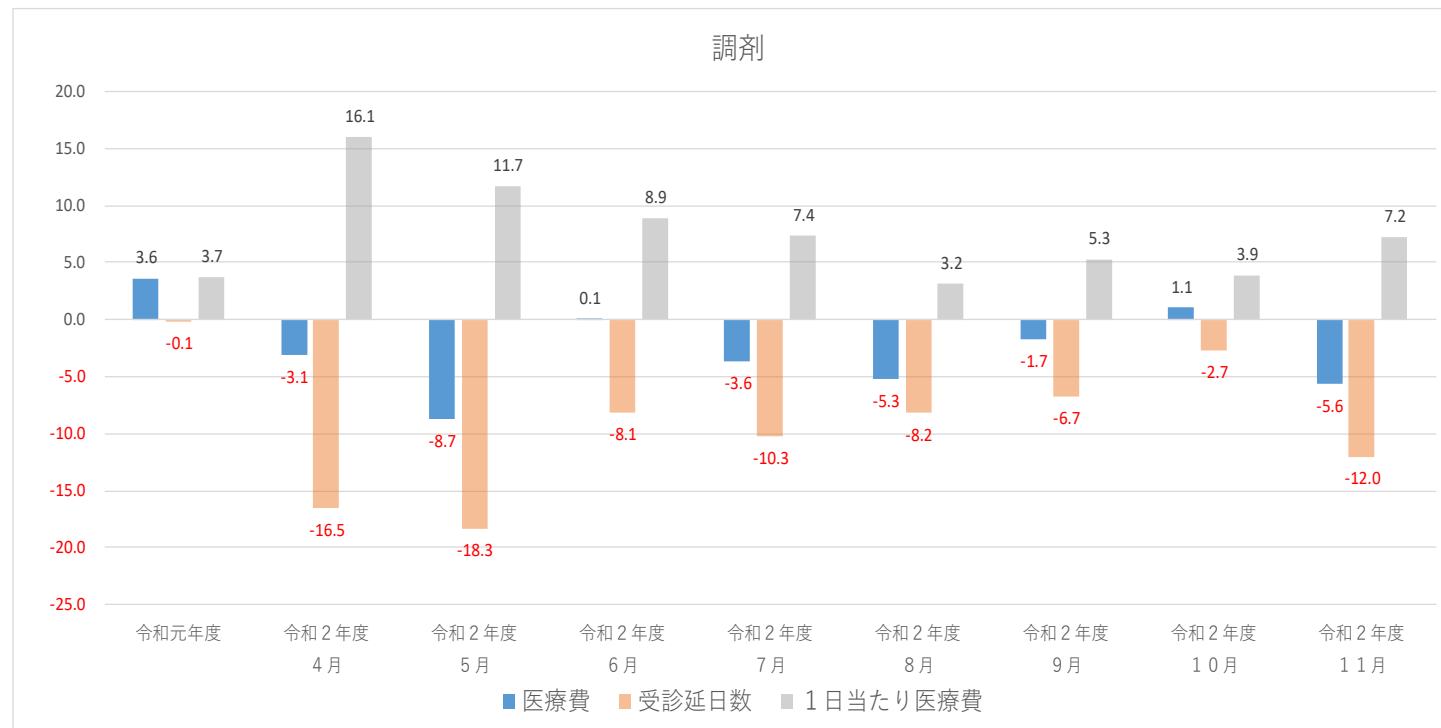
医療費の動向 令和2年4月～11月 ②－4 診療種別（調剤）

- 調剤医療費は、10月は+1.1%のプラスであったが、11月には再び▲5.6%とマイナスとなった。
- 受診延日数は入院外と同様4月～5月に▲16～▲18%程度と大きな減少となったが、6月以降は、その減少幅は減少傾向にあったものの、11月は減少幅が拡大。
- 1日当たり医療費は4月に+16.1%と大きな伸びとなったが、以降、増加幅は縮小傾向も11月は増加幅が大きくなった。

■ 調剤の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
医療費	3.6	-3.1	-8.7	0.1	-3.6	-5.3	-1.7	1.1	-5.6
受診延日数 ※	-0.1	-16.5	-18.3	-8.1	-10.3	-8.2	-6.7	-2.7	-12.0
1日当たり医療費	3.7	16.1	11.7	8.9	7.4	3.2	5.3	3.9	7.2



※受診延日数は「処方せん枚数（受付回数）」を集計したもの

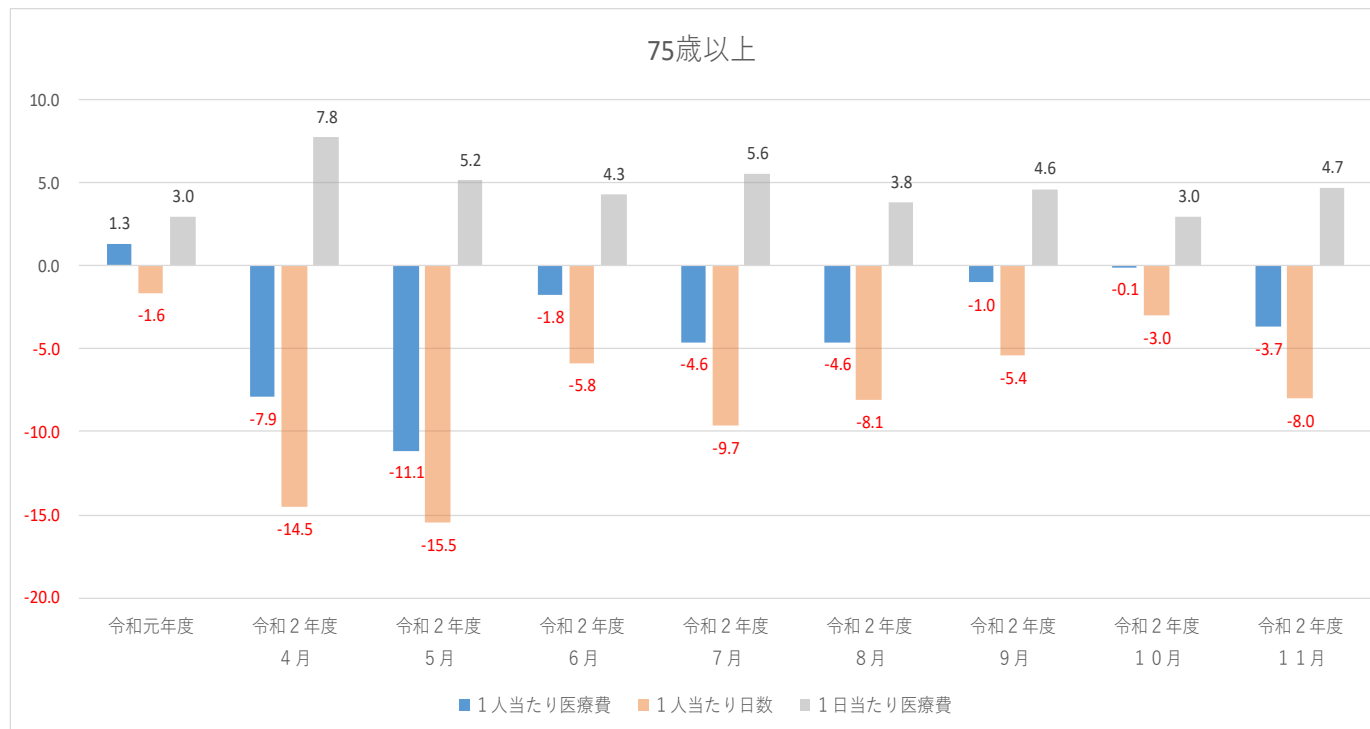
医療費の動向 令和2年4月～11月 ③－1 75歳以上の状況

- 11月は10月に比べ、1人当たり医療費、1人当たり日数の減少幅、1日当たり医療費の増加幅は大きくなった。

■ 75歳以上の医療費の伸び率（対前年同期比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
1人当たり医療費	1.3	-7.9	-11.1	-1.8	-4.6	-4.6	-1.0	-0.1	-3.7
1人当たり日数	-1.6	-14.5	-15.5	-5.8	-9.7	-8.1	-5.4	-3.0	-8.0
1日当たり医療費	3.0	7.8	5.2	4.3	5.6	3.8	4.6	3.0	4.7



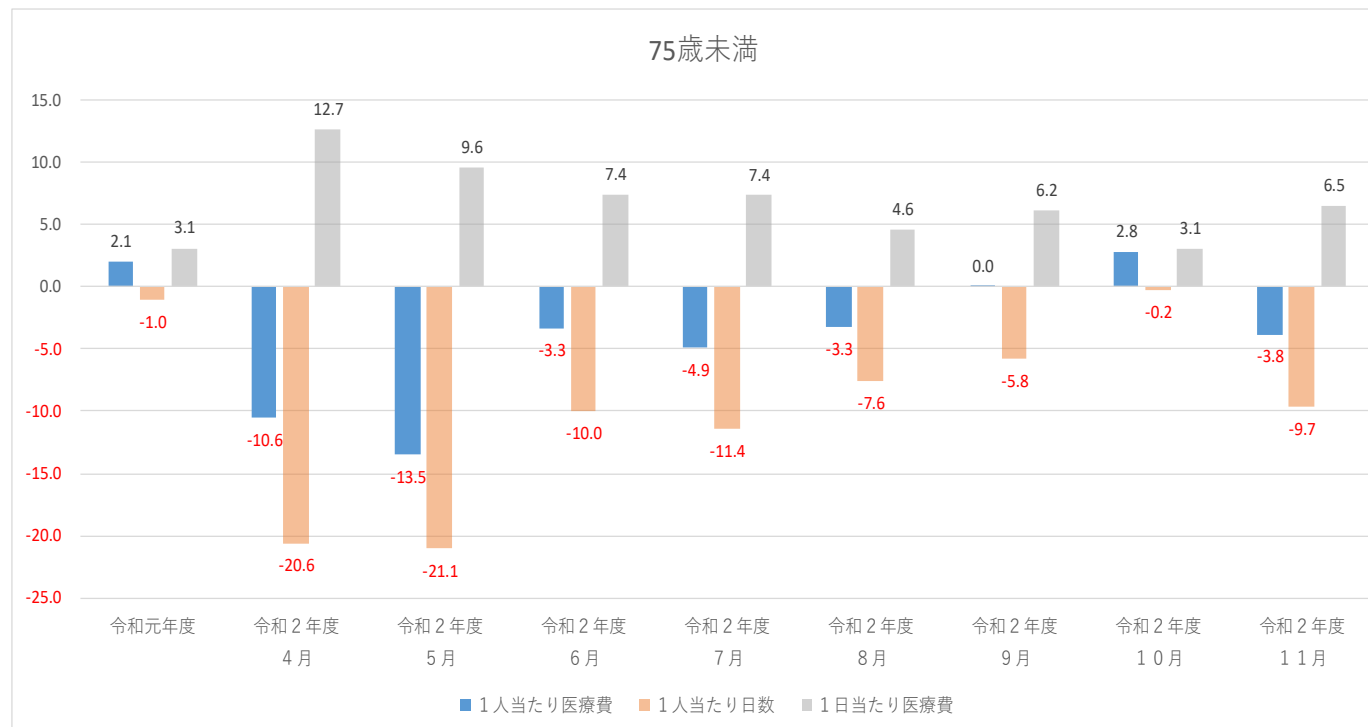
医療費の動向 令和2年4月～11月 ③-2 75歳未満の状況

○ 11月は、1人当たり医療費の伸び率が▲3.8%と、75歳以上と近い水準になった。

■ 75歳未満の医療費の伸び率（対前年同期比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
1人当たり医療費	2.1	-10.6	-13.5	-3.3	-4.9	-3.3	0.0	2.8	-3.8
1人当たり日数	-1.0	-20.6	-21.1	-10.0	-11.4	-7.6	-5.8	-0.2	-9.7
1日当たり医療費	3.1	12.7	9.6	7.4	7.4	4.6	6.2	3.1	6.5



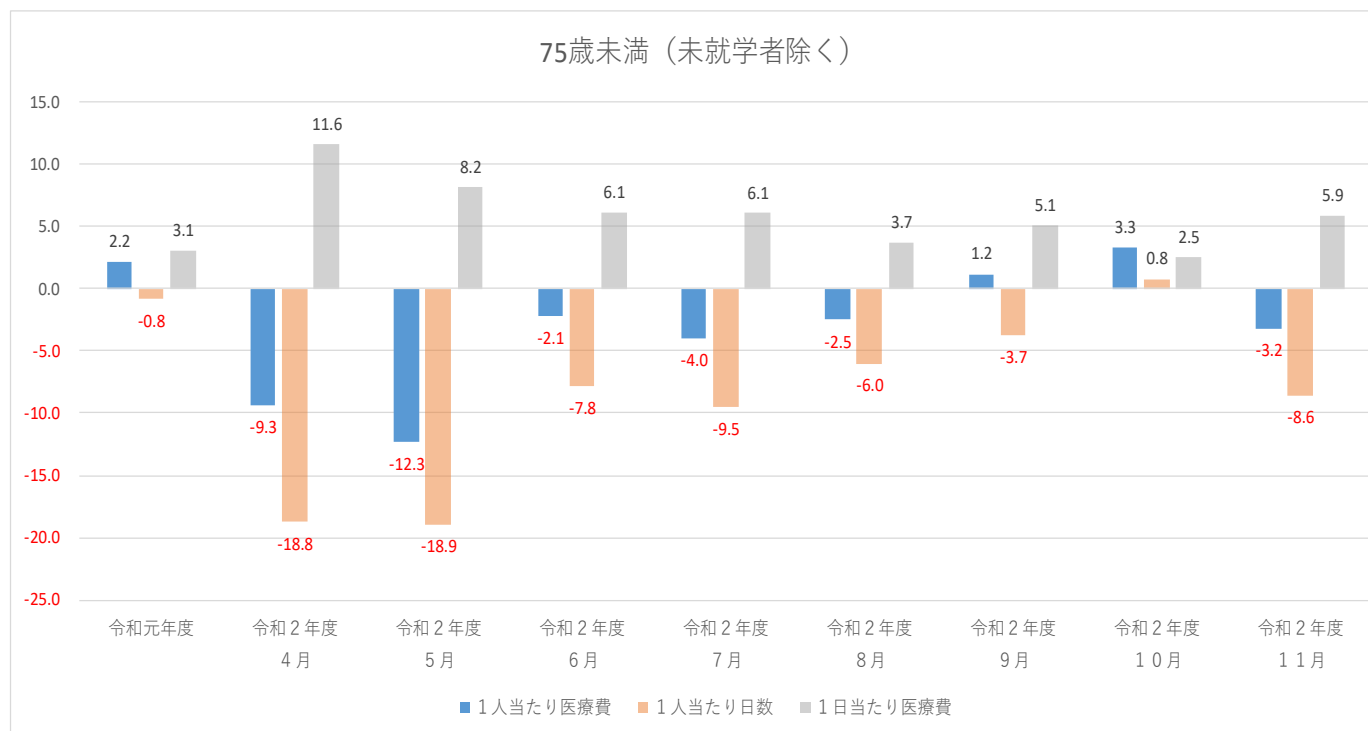
医療費の動向 令和2年4月～11月 ③-3 75歳未満（未就学者除く）の状況

○ 未就学者を除くと、1人当たり医療費の伸び率の減少幅は75歳以上に比べ小さくなる。

■ 75歳未満（未就学者除く）の医療費の伸び率（対前年同期比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
1人当たり医療費	2.2	-9.3	-12.3	-2.1	-4.0	-2.5	1.2	3.3	-3.2
1人当たり日数	-0.8	-18.8	-18.9	-7.8	-9.5	-6.0	-3.7	0.8	-8.6
1日当たり医療費	3.1	11.6	8.2	6.1	6.1	3.7	5.1	2.5	5.9



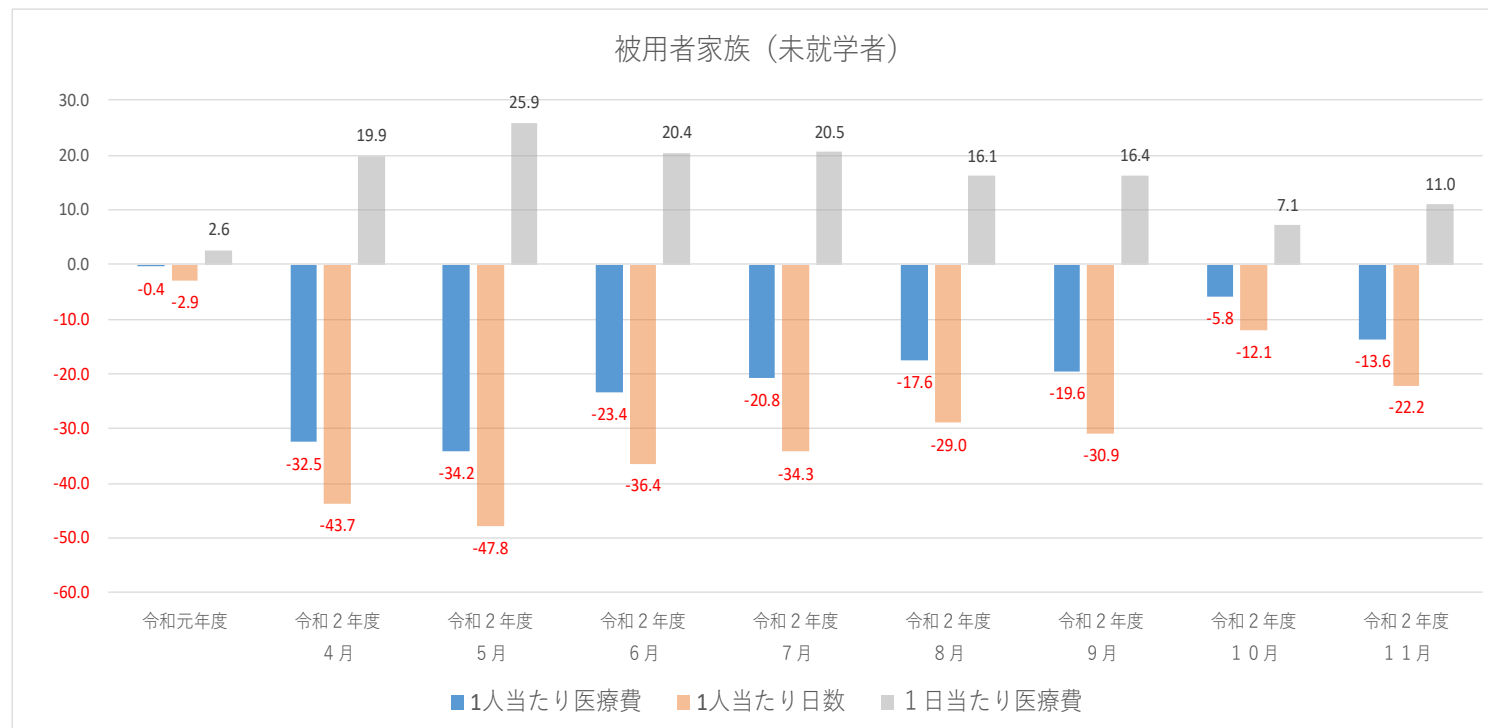
医療費の動向 令和2年4月～11月 ③－4 未就学者の状況

○ 未就学者について、10月には1人当たり医療費の減少は▲5.8%に留まったが、11月になると再び減少し▲13.6%となった。

■ 被用者家族（未就学者）の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
1人当たり医療費	-0.4	-32.5	-34.2	-23.4	-20.8	-17.6	-19.6	-5.8	-13.6
1人当たり日数	-2.9	-43.7	-47.8	-36.4	-34.3	-29.0	-30.9	-12.1	-22.2
1日当たり医療費	2.6	19.9	25.9	20.4	20.5	16.1	16.4	7.1	11.0



医療費の動向 令和2年4月～11月 ④診療科別の状況

- 入院外について、医科診療所の主たる診療科別の医療費の伸び率を見ると、11月はいずれの診療科もマイナスとなり、小児科・耳鼻咽喉科の伸び率が再び▲20%程度と大きく減少。

■ 伸び率（対前年同月比）

（単位：％）

		令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
医療費	医科診療所	0.8	▲16.3	▲15.7	▲4.2	▲6.8	▲4.2	▲2.8	1.3	▲7.3
	内科	0.4	▲11.6	▲12.1	▲2.4	▲4.9	▲3.6	▲1.4	0.2	▲6.6
	小児科	0.1	▲38.4	▲44.9	▲31.9	▲26.8	▲21.8	▲26.6	▲7.5	▲19.5
	外科	▲1.3	▲18.5	▲17.2	▲7.7	▲12.3	▲11.5	▲10.5	▲7.5	▲15.0
	整形外科	1.8	▲18.3	▲14.9	▲1.6	▲6.7	▲3.1	▲0.7	3.4	▲3.5
	皮膚科	1.9	▲15.2	▲6.0	6.2	▲5.4	2.5	0.5	8.4	▲4.0
	産婦人科	1.4	▲14.9	▲11.9	▲0.1	▲2.7	1.6	2.8	8.4	▲1.8
	眼科	2.3	▲19.7	▲21.4	▲2.0	▲4.9	0.3	▲0.0	7.7	▲4.9
	耳鼻咽喉科	▲2.7	▲42.6	▲40.1	▲28.5	▲21.9	▲17.2	▲18.2	▲6.1	▲23.1
その他	2.3	▲11.1	▲10.0	0.5	▲3.3	▲1.9	2.2	4.1	▲3.5	
受診延日数	医科診療所	▲1.3	▲21.0	▲20.4	▲10.0	▲12.3	▲8.0	▲7.5	▲1.5	▲11.9
	内科	▲1.7	▲15.6	▲18.0	▲8.8	▲11.0	▲8.3	▲6.4	▲3.6	▲13.3
	小児科	▲2.2	▲42.8	▲51.1	▲40.1	▲35.3	▲30.3	▲35.1	▲14.1	▲26.6
	外科	▲4.6	▲21.3	▲20.3	▲11.6	▲16.6	▲13.7	▲13.4	▲9.4	▲18.6
	整形外科	▲1.0	▲22.7	▲19.1	▲6.8	▲11.8	▲6.4	▲4.1	2.3	▲6.0
	皮膚科	1.2	▲14.2	▲5.1	5.6	▲5.7	2.4	0.3	8.6	▲3.4
	産婦人科	0.8	▲15.9	▲13.8	▲4.2	▲6.7	▲2.7	▲1.1	3.7	▲5.6
	眼科	▲1.3	▲25.8	▲24.0	▲7.5	▲7.0	▲3.2	▲5.6	5.5	▲7.4
	耳鼻咽喉科	▲4.3	▲42.3	▲41.5	▲33.8	▲26.7	▲21.6	▲23.2	▲10.7	▲26.6
その他	1.4	▲11.2	▲10.5	▲1.8	▲5.5	▲3.2	0.5	3.2	▲5.6	
1日当たり医療費	医科診療所	2.1	6.0	5.9	6.4	6.2	4.2	5.1	2.8	5.3
	内科	2.1	4.8	7.1	7.0	6.9	5.0	5.3	4.0	7.8
	小児科	2.3	7.8	12.6	13.6	13.1	12.2	13.1	7.8	9.6
	外科	3.5	3.6	3.8	4.3	5.2	2.5	3.4	2.1	4.3
	整形外科	2.8	5.7	5.1	5.5	5.8	3.5	3.6	1.1	2.6
	皮膚科	0.6	▲1.2	▲1.0	0.6	0.3	0.1	0.1	▲0.2	▲0.6
	産婦人科	0.6	1.2	2.3	4.3	4.4	4.4	3.9	4.5	4.1
	眼科	3.6	8.1	3.4	5.9	2.2	3.6	5.9	2.1	2.7
	耳鼻咽喉科	1.7	▲0.6	2.4	8.0	6.5	5.7	6.4	5.2	4.8
その他	0.8	0.1	0.5	2.3	2.3	1.3	1.6	0.9	2.3	

医療費の動向 令和2年4月～11月 ⑤都道府県別の状況

○ 都道府県別に入院外の医療費の伸び率を見ると、11月は全ての都道府県がマイナスとなり、データの散らばりの度合いを表す分散に大きな変動はない。

■入院外医療費の伸び率（対前年同月比）

（単位：％）


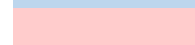
	医療費								
	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
全国	2.0	-13.7	-15.4	-2.6	-5.8	-4.7	-1.0	0.4	-5.8
北海道	2.2	-10.9	-15.5	-0.4	-4.4	-5.3	0.1	-0.8	-7.0
青森県	1.2	-8.7	-11.8	0.2	-5.3	-5.4	-1.2	-2.5	-8.6
岩手県	0.9	-6.5	-10.9	0.2	-6.1	-4.2	1.1	0.3	-7.1
宮城県	1.7	-11.0	-14.3	-0.9	-6.5	-4.2	-1.2	0.2	-5.8
秋田県	1.2	-8.5	-10.7	1.1	-5.5	-4.7	-0.4	-0.7	-5.5
山形県	0.8	-12.5	-15.3	0.1	-6.7	-5.0	-0.4	-0.7	-6.7
福島県	0.9	-9.6	-14.8	-2.6	-6.2	-5.2	-2.1	0.8	-6.5
茨城県	1.6	-14.1	-14.9	-2.2	-5.3	-4.9	-1.1	1.3	-5.8
栃木県	2.5	-10.8	-14.4	-3.2	-6.8	-6.2	-3.1	-1.2	-7.9
群馬県	1.6	-12.3	-14.5	-3.1	-6.4	-5.8	-1.1	-0.4	-5.9
埼玉県	2.6	-16.3	-16.0	-3.6	-5.4	-3.8	0.2	3.0	-4.6
千葉県	2.2	-15.5	-16.6	-4.3	-5.5	-4.3	0.9	2.4	-4.5
東京都	2.9	-20.9	-19.5	-5.0	-6.3	-4.4	0.0	1.9	-4.7
神奈川県	2.4	-16.9	-17.5	-5.0	-6.1	-4.1	0.1	1.9	-4.8
新潟県	1.2	-8.9	-13.2	0.5	-6.6	-5.5	-1.3	-2.4	-8.0
富山県	1.8	-11.9	-17.2	-2.3	-5.6	-4.6	-1.2	-2.3	-7.0
石川県	1.4	-15.1	-17.8	-2.6	-5.3	-5.5	-2.1	0.2	-7.0
福井県	0.4	-17.7	-16.9	-1.2	-7.0	-6.1	-1.7	-1.3	-6.5
山梨県	2.1	-13.0	-13.4	-1.3	-5.0	-5.1	-1.7	0.4	-5.7
長野県	1.9	-10.3	-13.9	-0.1	-4.7	-4.0	-0.1	0.6	-5.9
岐阜県	1.2	-14.4	-14.3	-2.1	-5.6	-5.1	-1.3	-0.3	-6.9
静岡県	2.3	-8.3	-11.9	-0.3	-4.9	-3.8	0.1	1.5	-5.1
愛知県	2.5	-12.2	-13.1	-1.3	-5.4	-4.4	-1.1	0.8	-5.8
三重県	1.2	-12.3	-14.4	-2.0	-6.4	-6.0	-1.8	-0.4	-6.8

（単位：％）

	医療費								
	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
滋賀県	2.3	-14.2	-15.8	-3.2	-5.7	-5.2	-1.8	0.7	-6.6
京都府	1.8	-14.0	-15.9	-3.0	-6.1	-4.5	-0.8	-0.5	-6.1
大阪府	2.1	-14.5	-15.9	-3.3	-5.9	-4.2	-1.3	0.0	-6.0
兵庫県	2.1	-15.6	-16.7	-3.2	-6.1	-4.0	-0.9	0.0	-5.9
奈良県	3.2	-11.1	-13.1	-2.3	-4.2	-4.0	0.1	0.8	-5.6
和歌山県	0.9	-10.2	-11.8	-1.6	-5.9	-4.9	-2.0	-1.3	-7.0
鳥取県	1.5	-7.6	-12.2	-1.7	-5.2	-4.3	-0.6	0.5	-5.8
島根県	1.8	-7.5	-12.5	1.3	-5.5	-4.2	-1.5	-1.0	-6.7
岡山県	2.1	-8.7	-14.2	-0.9	-5.5	-4.9	-1.5	-0.9	-5.9
広島県	1.7	-10.8	-14.8	-1.8	-6.1	-3.8	-1.1	-0.7	-6.8
山口県	0.6	-10.8	-14.2	-2.3	-6.1	-3.9	-1.8	-0.8	-7.5
徳島県	1.3	-8.5	-10.4	-0.3	-6.1	-6.7	-2.7	-1.4	-7.6
香川県	1.2	-10.9	-13.4	-1.2	-5.9	-5.4	-1.9	-0.8	-6.8
愛媛県	2.0	-11.8	-14.3	-2.6	-6.1	-5.0	-2.3	-1.7	-6.8
高知県	0.1	-12.5	-14.3	-1.1	-5.9	-5.0	-2.3	-1.4	-6.2
福岡県	1.7	-16.0	-17.1	-4.6	-6.3	-4.5	-3.5	-0.3	-5.9
佐賀県	2.5	-10.0	-12.5	0.6	-4.3	-1.0	-1.9	0.7	-4.8
長崎県	1.1	-8.6	-12.4	-0.7	-7.5	-5.7	-3.7	-1.4	-6.6
熊本県	1.0	-11.8	-14.4	-3.9	-7.1	-6.0	-5.2	-2.2	-7.8
大分県	1.0	-12.2	-12.8	-0.5	-5.4	-8.7	-0.6	-1.4	-5.7
宮崎県	2.0	-7.5	-9.5	1.2	-3.1	-6.4	-3.1	-0.9	-4.5
鹿児島県	1.7	-7.2	-10.8	-0.2	-5.4	-5.1	-2.7	-0.3	-4.8
沖縄県	4.2	-14.8	-19.1	-3.6	-6.4	-8.4	-7.1	0.3	-3.9

最大： 4.2 -6.5 -9.5 1.3 -3.1 -1.0 1.1 3.0 -3.9
 最小： 0.1 -20.9 -19.5 -5.0 -7.5 -8.7 -7.1 -2.5 -8.6
 分散*： 0.6 9.9 5.1 2.8 0.7 1.4 2.2 1.5 1.1

※分散とは、データの散らばりの度合いを表す値

 : 医療費の伸び率 上位10県（減少幅が小さい）
 : 医療費の伸び率 下位10県（減少幅が大きい）

(参考) 診療科別 都道府県別の状況

- 都道府県別に令和2年度4月～9月の医科診療所の入院外医療費の伸び率を見ると、多少ばらつきがあるものの、都道府県間の差は大きくない。
- 一方、主たる診療科で特に減少の大きい「小児科」、「耳鼻咽喉科」を見ると、最大と最小の差異が20%超となり、またばらつきも全体に比べ大きい。

■ 医科診療所の主たる診療科別 都道府県別 入院外医療費（令和2年度4月～9月）の伸び率（対前年度同期比）

(単位：%)

	医科診療所		
		小児科	耳鼻咽喉科
全国	-8.4	-31.9	-29.0
北海道	-7.9	-34.9	-25.6
青森県	-7.1	-24.9	-21.9
岩手県	-5.1	-20.9	-18.9
宮城県	-7.9	-34.1	-26.4
秋田県	-5.2	-25.1	-14.9
山形県	-6.1	-30.6	-23.6
福島県	-8.1	-29.1	-23.1
茨城県	-7.9	-31.0	-26.0
栃木県	-7.9	-25.6	-24.2
群馬県	-8.1	-38.4	-26.6
埼玉県	-8.3	-34.7	-28.9
千葉県	-9.2	-39.1	-33.3
東京都	-10.3	-29.6	-36.0
神奈川県	-8.1	-35.9	-30.8
新潟県	-7.7	-34.3	-21.3
富山県	-9.8	-33.7	-27.7
石川県	-9.8	-37.9	-27.1
福井県	-9.6	-29.7	-27.1
山梨県	-8.4	-32.5	-25.6
長野県	-7.7	-30.2	-22.5
岐阜県	-8.4	-32.7	-27.6
静岡県	-6.7	-32.8	-25.3
愛知県	-7.9	-30.4	-29.9
三重県	-8.2	-32.7	-28.9

(単位：%)

	医科診療所		
		小児科	耳鼻咽喉科
滋賀県	-9.0	-28.6	-27.3
京都府	-9.3	-27.8	-29.4
大阪府	-8.9	-28.5	-33.1
兵庫県	-8.9	-34.6	-32.8
奈良県	-7.3	-31.9	-28.6
和歌山県	-8.4	-31.9	-24.4
鳥取県	-6.3	-23.6	-21.8
島根県	-5.4	-21.9	-23.0
岡山県	-7.4	-26.9	-27.7
広島県	-7.6	-35.4	-25.6
山口県	-6.9	-26.2	-19.3
徳島県	-8.1	-23.3	-27.1
香川県	-7.2	-24.0	-26.0
愛媛県	-7.8	-31.3	-27.0
高知県	-8.7	-42.3	-22.2
福岡県	-9.8	-35.4	-28.9
佐賀県	-5.6	-20.6	-20.6
長崎県	-7.9	-27.5	-23.5
熊本県	-8.6	-30.7	-23.1
大分県	-7.4	-31.5	-22.9
宮崎県	-6.4	-30.4	-17.2
鹿児島県	-5.8	-26.4	-21.7
沖縄県	-10.0	-42.0	-32.8

最大：	-5.1	-20.6	-14.9
最小：	-10.3	-42.3	-36.0
分散※：	1.7	26.5	18.9

※分散とは、データの散らばりの度合いを表す値

：医療費の伸び率 上位10県（減少幅が小さい）
 ：医療費の伸び率 下位10県（減少幅が大きい）

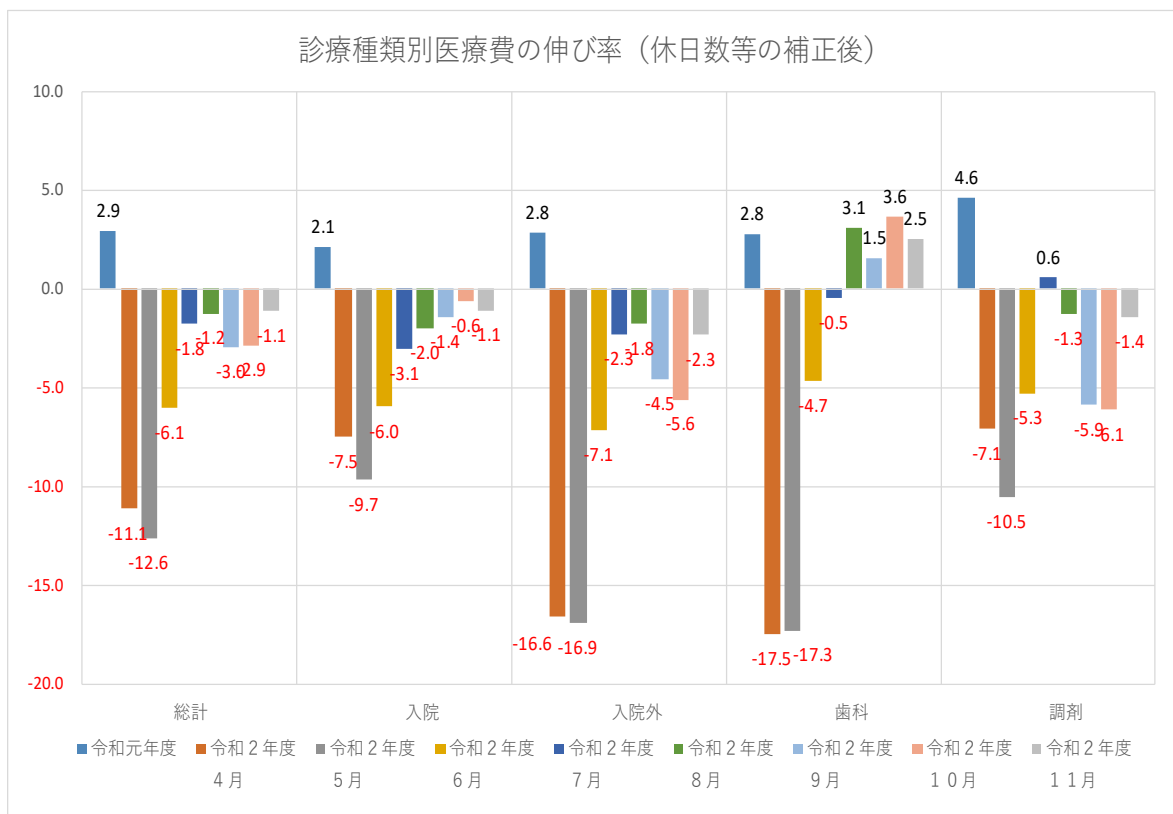
医療費の動向 令和2年4月～11月 ⑥休日数等の調整後の医療費の伸び率

○ 休日数等の調整後の医療費の伸び率は、7月以降、▲1～3%程度で推移。

■ 診療種別医療費の伸び率（休日数等の補正後・対前年同期比）（単位：％）

	令和元年度	令和2年度								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
総計	2.9	-11.1	-12.6	-6.1	-1.8	-1.2	-3.0	-2.9	-1.1	
入院	2.1	-7.5	-9.7	-6.0	-3.1	-2.0	-1.4	-0.6	-1.1	
入院外	2.8	-16.6	-16.9	-7.1	-2.3	-1.8	-4.5	-5.6	-2.3	
歯科	2.8	-17.5	-17.3	-4.7	-0.5	3.1	1.5	3.6	2.5	
調剤	4.6	-7.1	-10.5	-5.3	0.6	-1.3	-5.9	-6.1	-1.4	

	令和元年度	令和2年度								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
前年同期差 日	日曜・祭日等	+3	-1	-1	-1	+1	+1	-1	-2	+1
	土曜	+2	0	+2	-1	0	0	0	+1	0
	休日でない木曜	+1	+1	0	0	0	-1	0	0	0



（参考）医療費の伸び率（対前年同月比）に対する休日数等の対前年同月差の影響補正係数（平成22年度～）

	日曜・祭日等	土曜	休日でない木曜
総計	-2.7	-1.0	-0.4
入院	-1.2	-0.8	-0.2
入院外	-3.5	-1.0	-0.6
歯科	-3.5	-1.0	-1.3
調剤	-4.2	-1.2	-0.2

注。

休日数等の影響を補正した医療費の伸び率は、平成16～21年度の各月の制度別等の1人当たり医療費の伸び率（診療報酬改定等及び閏日の影響を除く）を、日曜・祭日等（年未年始については、12月29日～1月3日を日曜として扱っている）の数、土曜日の数、休日でない木曜日の数、1定点当たりインフルエンザ報告数（国立感染症研究所感染症情報センター「サーベイランス」）、花粉症の影響を表すデータ（環境省花粉観測システムの観測地点・観測時刻データの単純平均）の対前年同月差を説明変数として重回帰分析した結果を用いて補正している。

なお、総計及び公費については、医療保険計について重回帰分析した結果を用いて補正している。

電子レセプトを用いた医科(入院・入院外)医療費の分析 ＜令和2年4月～11月＞

レセプト電算処理システムにより処理された診療報酬明細書(電子レセプト)のうち医科入院、医科入院外分を用いて集計、医療費の動向について詳細を分析。
ただし、以下の点について留意が必要。
・医科入院外分は月毎に100分の1の抽出率でランダム抽出したデータを用いていること。
・電算化率の変動が医療費の伸び率に影響を与えること(電算化率は入院は95%程度、入院外は98%程度)

- 年齢階級別では、入院・入院外ともに、「0歳以上 5歳未満」「5歳以上 10歳未満」層の減少幅が大きい。
- 疾病分類別では、入院・入院外ともに、引き続き「呼吸器系の疾患」がマイナス方向に大きく影響しており、その他では、入院外で「循環器系の疾患」がマイナスに寄与している。
- 診療内容別では、入院は再び「手術・麻酔」が、入院外は「初診」「薬剤料」がマイナスに大きく寄与。

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～11月 ①年齢階級別

○ 11月は、入院・入院外ともに「0歳以上 5歳未満」「5歳以上 10歳未満」層の減少幅が大きくなった。

■ 入院 1人当たり医療費伸び率

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
総数	2.5	-6.1	-10.7	-4.1	-4.4	-3.4	-0.6	0.6	-2.2
0歳以上 5歳未満	0.8	-19.3	-21.1	-15.8	-17.4	-15.1	-15.5	-9.9	-10.9
5歳以上 10歳未満	3.4	-24.2	-27.4	-17.8	-20.4	-16.5	-10.3	-9.5	-16.7
10歳以上 15歳未満	2.8	-12.2	-15.6	-4.6	-14.6	-6.6	4.0	4.6	-0.4
15歳以上 20歳未満	4.3	-13.5	-16.3	-11.0	-20.9	-13.2	1.4	5.0	-1.9
20歳以上 25歳未満	0.7	-10.3	-16.7	-8.1	-4.5	-9.5	-2.8	2.1	-5.1
25歳以上 30歳未満	0.3	-9.5	-12.6	-8.4	-6.9	-4.6	-1.2	-0.6	-3.6
30歳以上 35歳未満	0.6	-7.1	-11.2	-4.2	-4.7	-2.5	0.0	-1.7	-2.9
35歳以上 40歳未満	0.7	-7.2	-12.0	-4.4	-2.6	-3.4	0.9	0.9	-3.3
40歳以上 45歳未満	1.7	-6.0	-11.5	-6.0	-6.1	-4.6	-0.9	0.9	-4.9
45歳以上 50歳未満	0.9	-7.6	-12.4	-5.8	-6.1	-5.2	-0.3	-0.5	-3.7
50歳以上 55歳未満	0.3	-6.7	-11.2	-5.3	-5.1	-4.4	1.2	0.8	-2.7
55歳以上 60歳未満	1.3	-5.4	-11.1	-5.1	-5.4	-5.0	-1.0	-0.4	-4.0
60歳以上 65歳未満	1.2	-5.0	-11.3	-6.1	-5.5	-3.2	-1.4	0.3	-2.4
65歳以上 70歳未満	1.2	-5.7	-12.0	-5.7	-5.2	-3.4	-1.7	0.8	-2.8
70歳以上 75歳未満	0.9	-7.1	-13.2	-5.4	-5.5	-3.6	-1.9	0.0	-3.0
75歳以上 80歳未満	1.1	-7.2	-13.0	-4.9	-5.1	-3.9	-1.3	0.1	-3.2
80歳以上 85歳未満	1.1	-7.7	-11.4	-4.5	-5.0	-5.0	-2.2	-0.9	-3.8
85歳以上 90歳未満	0.8	-7.8	-9.9	-4.1	-4.9	-4.6	-2.0	-1.5	-3.3
90歳以上 95歳未満	1.0	-7.4	-9.4	-4.5	-5.5	-5.3	-3.7	-3.0	-4.1
95歳以上 100歳未満	-1.0	-8.4	-10.7	-6.0	-6.8	-8.5	-5.2	-5.3	-6.4
100歳以上	3.6	-7.6	-8.5	-5.9	-4.2	-5.4	-1.8	-8.4	-8.5

■ 入院外 1人当たり医療費伸び率

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
総数	2.7	-12.7	-15.0	-2.7	-5.3	-4.6	-0.2	1.4	-5.3
0歳以上 5歳未満	-0.7	-44.5	-51.5	-37.6	-27.8	-28.8	-28.1	-9.1	-19.4
5歳以上 10歳未満	-1.7	-38.2	-42.9	-22.1	-16.4	-5.9	-16.7	-2.1	-19.0
10歳以上 15歳未満	0.4	-39.2	-32.4	-16.3	-6.5	5.0	-4.9	5.7	-8.7
15歳以上 20歳未満	0.3	-35.3	-20.9	-13.3	2.4	9.9	10.4	7.0	-1.5
20歳以上 25歳未満	3.4	-15.9	-12.4	1.7	-16.3	-2.4	18.7	-0.2	0.7
25歳以上 30歳未満	2.9	-17.6	-18.6	0.8	-7.6	1.6	2.3	-6.7	0.3
30歳以上 35歳未満	4.0	-15.9	-21.5	-5.3	-1.7	-0.1	-4.3	-4.2	-6.8
35歳以上 40歳未満	2.8	-15.6	-17.2	-6.1	-5.1	-4.8	2.7	8.9	-8.1
40歳以上 45歳未満	1.8	-14.4	-16.1	-5.3	-0.5	-3.4	2.6	3.9	-9.6
45歳以上 50歳未満	1.3	-10.3	-10.4	-8.0	-6.7	2.6	1.4	7.0	-8.1
50歳以上 55歳未満	0.9	-9.8	-8.5	1.0	-4.9	-8.2	3.2	0.0	-4.5
55歳以上 60歳未満	3.3	-6.0	-11.6	-3.2	-7.6	-6.3	-0.4	4.8	-0.8
60歳以上 65歳未満	1.6	-11.3	-10.1	2.3	-4.0	-1.7	1.2	-0.3	-5.9
65歳以上 70歳未満	2.9	-9.3	-15.7	-0.8	-6.6	-7.0	-0.2	1.8	-3.2
70歳以上 75歳未満	2.4	-10.6	-13.4	-0.3	-4.6	-7.4	-0.4	-1.1	-6.8
75歳以上 80歳未満	1.3	-10.2	-15.7	-2.9	-5.0	-6.0	-1.1	0.2	-5.3
80歳以上 85歳未満	2.7	-11.7	-14.8	-1.7	-5.0	-5.9	-1.4	-0.2	-6.0
85歳以上 90歳未満	1.3	-13.5	-9.2	2.6	-5.4	-3.6	-1.5	1.4	-4.5
90歳以上 95歳未満	0.7	-10.6	-12.3	0.3	-1.4	-6.2	0.4	2.4	-2.2
95歳以上 100歳未満	-0.2	-10.5	-1.3	0.2	6.9	-0.9	4.8	-8.5	-6.4
100歳以上	4.7	24.1	-17.9	11.6	-9.1	-10.1	3.7	3.1	-17.7

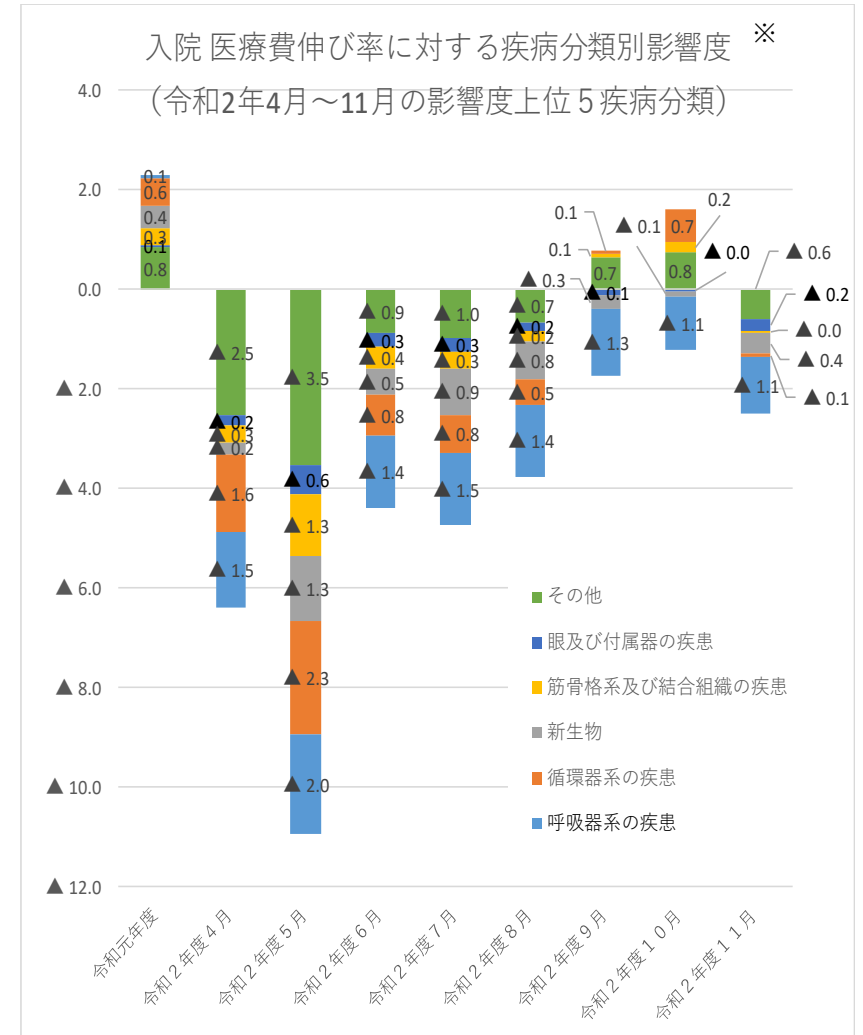
：伸び率の下位3階級（減少幅が大きい）

※ 1人当たり医療費の算出にあたり、各年齢階級毎の人数は総務省統計局「人口推計」における5歳階級別人口を用いた。

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～11月 ②-1 疾病分類別 入院

- 疾病分類別の医療費の伸び率を見ると、11月はいずれの疾病分類もマイナスとなり、依然として「呼吸器系の疾患」の減少幅が大きい。
- 医療費全体の伸び率に対する影響度で見ても、「呼吸器系の疾患」のマイナスの影響が大きい。

■ 入院 疾病分類別医療費の伸び率	(単位：%)									令和元年度 医療費の 構成割合
	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月	
総数	2.3	▲ 6.4	▲ 10.9	▲ 4.4	▲ 4.7	▲ 3.8	▲ 0.9	0.4	▲ 2.5	100.0
感染症及び寄生虫症	1.2	▲ 16.2	▲ 14.8	▲ 7.4	▲ 4.1	▲ 2.2	0.9	1.1	▲ 0.7	1.4
新生物	2.7	▲ 1.5	▲ 8.1	▲ 3.2	▲ 5.5	▲ 4.7	▲ 1.7	▲ 0.6	▲ 2.6	16.4
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	3.7	▲ 6.4	▲ 7.5	▲ 4.9	▲ 3.2	▲ 4.3	▲ 1.4	▲ 4.7	▲ 3.3	0.7
内分泌、栄養及び代謝疾患	2.4	▲ 8.3	▲ 9.9	▲ 4.0	▲ 3.4	▲ 3.4	2.3	0.3	▲ 2.7	2.7
精神及び行動の障害	▲ 0.4	▲ 1.9	▲ 2.6	▲ 1.2	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 1.5	8.6
神経系の疾患	4.0	▲ 1.5	▲ 3.9	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.0	1.7	2.6	▲ 0.1	6.5
眼及び付属器の疾患	3.4	▲ 13.9	▲ 38.8	▲ 16.9	▲ 17.1	▲ 12.2	▲ 7.0	▲ 2.1	▲ 14.7	1.5
耳及び乳様突起の疾患	0.4	▲ 30.5	▲ 33.8	▲ 19.3	▲ 13.3	▲ 14.9	▲ 6.5	▲ 6.1	▲ 12.0	0.3
循環器系の疾患	2.6	▲ 7.0	▲ 10.3	▲ 3.7	▲ 3.6	▲ 2.5	0.4	3.2	▲ 0.3	21.9
呼吸器系の疾患	1.1	▲ 23.2	▲ 29.6	▲ 23.3	▲ 23.5	▲ 22.2	▲ 20.7	▲ 17.4	▲ 18.2	6.3
消化器系の疾患	2.0	▲ 10.0	▲ 13.0	▲ 3.2	▲ 1.8	▲ 1.9	1.1	1.6	▲ 3.5	5.9
皮膚及び皮下組織の疾患	3.6	▲ 5.6	▲ 7.7	▲ 0.5	0.4	▲ 0.8	0.8	0.2	▲ 1.5	0.8
筋骨格系及び結合組織の疾患	4.8	▲ 4.5	▲ 18.4	▲ 6.0	▲ 4.5	▲ 2.8	0.7	2.5	▲ 0.3	7.2
腎尿路生殖器系の疾患	4.4	▲ 4.6	▲ 7.9	▲ 0.9	▲ 1.9	▲ 0.4	2.9	2.5	▲ 0.2	4.2
妊娠、分娩及び産じょく	▲ 1.7	▲ 2.4	▲ 6.3	0.0	▲ 3.0	▲ 1.8	0.3	▲ 1.9	▲ 6.8	1.1
周産期に発生した病態	0.4	4.2	6.4	11.6	0.1	5.0	2.1	7.5	▲ 2.0	0.9
先天奇形、変形及び染色体異常	1.2	▲ 11.1	▲ 18.7	▲ 7.3	▲ 9.3	▲ 6.2	3.9	3.6	▲ 4.0	0.8
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2.3	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.6	▲ 8.2	▲ 8.5	▲ 5.5	▲ 5.7	▲ 6.8	0.9
損傷、中毒及びその他の外因の影響	3.7	▲ 5.3	▲ 8.5	▲ 0.4	▲ 1.2	▲ 0.8	2.7	3.3	▲ 0.2	10.2
不詳	▲ 11.4	▲ 14.0	▲ 17.4	▲ 19.4	▲ 17.2	▲ 16.8	▲ 15.2	▲ 16.2	▲ 18.0	1.5



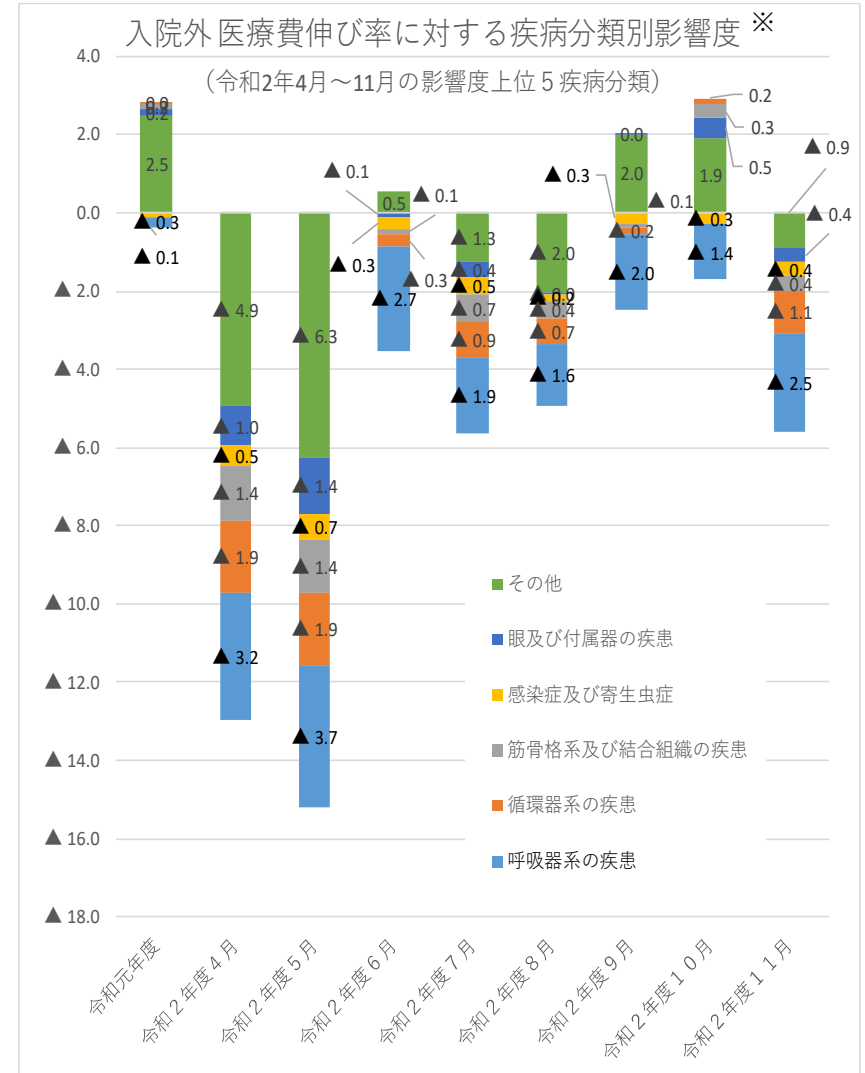
※影響度は(各疾病分類の医療費の増減分)÷(前期の医療費総数)×100で算定

■ : 下位5疾病分類 (減少幅が大きい) ※不詳除く ■ : 上位5疾病分類

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～11月 ②-2 疾病分類別 入院外

- 疾病分類別の医療費の伸び率を見ると、「循環器系の疾患」が10月はプラスであったが、11月は▲7.0%に減少。また、「呼吸器系の疾患」「感染症及び寄生虫症」の減少幅は依然として大きい。
- 医療費全体の伸び率に対する影響度で見ると、「呼吸器系の疾患」「循環器系の疾患」のマイナスの影響が大きい。

	令和2年度 (単位：%)									令和元年度 医療費の 構成割合
	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月	
総数	2.5	▲13.0	▲15.2	▲3.0	▲5.6	▲4.9	▲0.5	1.2	▲5.6	100.0
感染症及び寄生虫症	▲3.6	▲20.7	▲26.9	▲12.2	▲17.0	▲7.1	▲11.7	▲11.5	▲14.6	2.5
新生物	9.4	▲3.3	▲11.7	4.0	2.3	▲5.9	7.2	3.8	1.4	12.3
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	25.4	3.6	▲4.7	▲12.4	▲3.7	▲5.7	22.9	▲2.5	▲8.0	1.2
内分泌、栄養及び代謝疾患	2.7	▲6.6	▲6.5	0.7	▲2.4	▲4.9	1.5	2.3	▲3.6	10.6
精神及び行動の障害	1.2	▲10.1	▲10.6	▲0.2	▲4.0	▲1.4	1.5	3.2	▲3.6	4.0
神経系の疾患	4.7	▲2.7	▲3.0	1.4	0.4	0.5	9.5	8.2	▲0.2	3.3
眼及び付属器の疾患	2.6	▲17.2	▲22.7	▲1.5	▲5.8	▲0.5	0.0	9.0	▲6.0	6.0
耳及び乳様突起の疾患	▲0.9	▲30.6	▲30.6	▲16.1	▲12.1	▲12.3	▲4.7	1.8	▲14.3	0.9
循環器系の疾患	0.2	▲11.3	▲11.9	▲2.1	▲5.8	▲4.2	▲1.1	1.0	▲7.0	15.7
呼吸器系の疾患	▲3.1	▲38.1	▲46.6	▲35.9	▲27.3	▲24.9	▲27.4	▲18.1	▲29.3	8.1
消化器系の疾患	1.8	▲16.6	▲18.3	▲4.7	▲8.5	▲2.0	0.9	6.3	▲2.0	5.3
皮膚及び皮下組織の疾患	5.5	▲11.3	▲8.4	6.9	▲2.1	0.2	0.2	6.8	▲0.1	3.1
筋骨格系及び結合組織の疾患	1.7	▲15.8	▲14.9	▲1.3	▲7.6	▲4.9	▲0.8	3.6	▲4.2	8.9
腎尿路生殖系系の疾患	3.9	▲2.9	▲5.7	6.3	▲1.0	▲2.7	0.7	0.9	▲1.9	10.9
妊娠、分娩及び産じょく	▲5.8	▲9.9	▲4.4	▲5.1	2.8	▲1.7	1.8	▲3.7	▲10.5	0.1
周産期に発生した病態	▲1.7	▲38.3	19.6	20.1	24.6	▲6.9	27.3	6.6	▲5.4	0.2
先天奇形、変形及び染色体異常	5.9	▲26.5	▲15.9	12.5	6.7	5.2	▲1.2	6.3	5.6	0.4
症状、徴候及び異常臨床所見で異常検査所見で他に分類されないもの	5.1	▲21.5	▲15.8	▲6.8	▲8.8	▲3.8	6.7	3.6	▲1.0	1.8
損傷、中毒及びその他の外因の影響	1.4	▲24.1	▲23.9	▲2.6	▲7.5	▲0.4	0.5	2.3	▲1.1	2.7
不詳	▲7.3	▲20.8	▲23.7	▲13.0	▲10.6	▲13.9	▲5.8	▲9.0	▲12.5	2.0



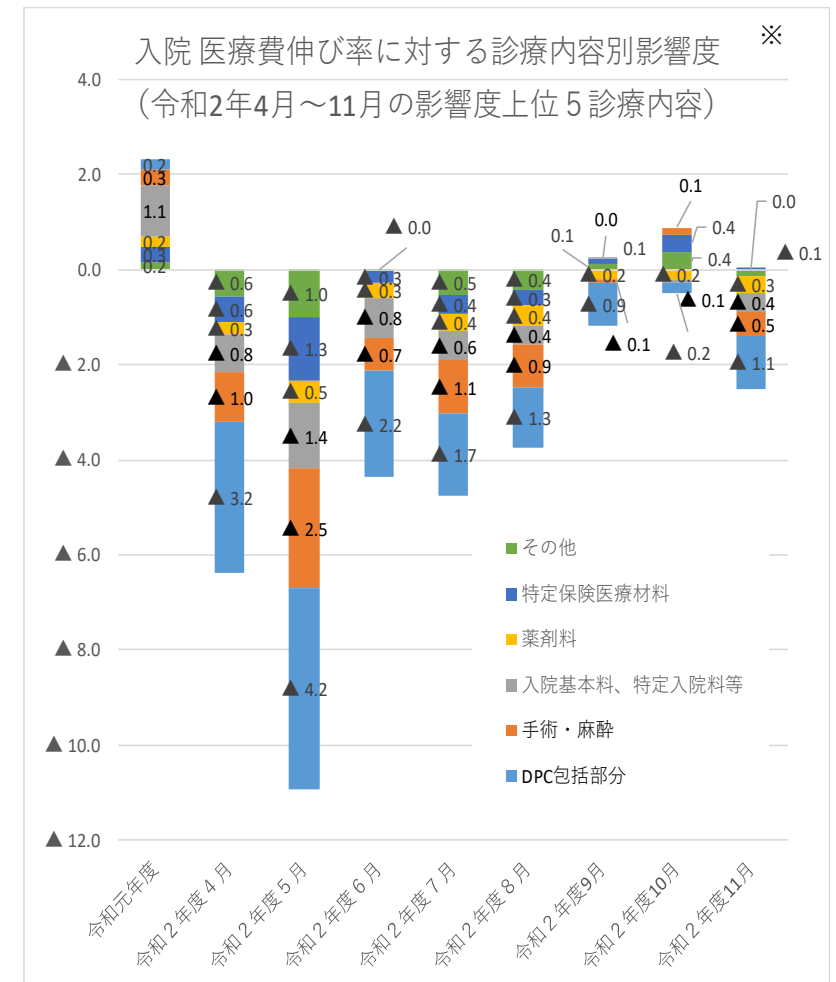
※影響度は(各疾病分類の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100で算定

：下位5疾病分類 (減少幅が大きい) ※不詳除く ：上位5疾病分類

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～11月 ③-1 診療内容別入院

- 診療内容別に医療費の伸び率を見ると、11月は「初診」「注射」「薬剤料」の減少幅がやや大きい。
- 医療費全体の伸び率に対する影響度で見ると、10月はプラスに寄与していた「手術・麻酔」が11月には▲0.5%とマイナスに寄与している。

■ 入院 診療内容別医療費の伸び率	(単位：%)									(単位：%) 令和元年度 医療費の 構成割合
	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月	
総数	2.3	▲ 6.4	▲ 10.9	▲ 4.4	▲ 4.7	▲ 3.8	▲ 0.9	0.4	▲ 2.5	100.0
初診	0.6	▲ 22.3	▲ 18.3	▲ 8.7	▲ 12.0	▲ 8.7	▲ 8.5	▲ 7.0	▲ 9.7	0.1
医学管理	0.2	▲ 9.5	▲ 14.6	▲ 0.8	▲ 5.6	▲ 3.1	1.5	4.1	▲ 0.8	0.7
在宅	▲ 0.1	▲ 11.8	▲ 12.8	▲ 9.2	▲ 6.0	▲ 4.2	▲ 0.4	2.7	▲ 5.4	0.1
投薬	▲ 2.0	▲ 5.7	▲ 7.0	▲ 7.1	▲ 6.8	▲ 6.6	▲ 6.2	▲ 5.1	▲ 6.2	0.1
注射	▲ 3.1	▲ 8.2	▲ 9.4	▲ 7.2	▲ 9.6	▲ 9.6	▲ 7.1	▲ 6.0	▲ 7.5	0.2
処置	2.5	▲ 3.2	▲ 5.1	▲ 1.6	▲ 4.1	▲ 4.6	▲ 1.4	▲ 0.8	▲ 4.5	1.4
手術・麻酔	2.5	▲ 8.8	▲ 22.0	▲ 5.9	▲ 9.0	▲ 7.4	▲ 0.5	1.2	▲ 4.2	11.9
検査・病理診断	▲ 1.2	▲ 15.2	▲ 19.1	▲ 6.7	▲ 11.4	▲ 8.9	▲ 2.7	5.2	5.9	1.3
画像診断	▲ 0.8	▲ 10.3	▲ 13.1	▲ 1.0	▲ 9.1	▲ 6.9	▲ 2.4	▲ 1.4	▲ 6.4	0.5
リハビリテーション	2.6	2.6	▲ 0.3	6.7	1.5	1.5	6.8	7.6	2.2	5.1
精神科専門療法	1.9	1.2	▲ 3.9	10.1	▲ 0.6	1.2	7.0	7.8	1.4	0.5
放射線治療	3.0	2.2	▲ 12.1	3.6	▲ 6.9	▲ 3.7	0.9	0.0	▲ 6.4	0.3
入院基本料、特定入院料等	3.1	▲ 2.3	▲ 3.8	▲ 2.4	▲ 1.9	▲ 1.1	0.0	▲ 0.2	▲ 1.2	35.1
DPC包括部分	0.8	▲ 11.4	▲ 15.0	▲ 8.0	▲ 6.2	▲ 4.6	▲ 3.2	▲ 0.8	▲ 3.9	27.9
薬剤料	6.6	▲ 6.9	▲ 13.6	▲ 8.5	▲ 10.0	▲ 11.6	▲ 5.9	▲ 5.6	▲ 9.3	3.7
特定保険医療材料	5.2	▲ 8.7	▲ 21.3	▲ 4.0	▲ 6.0	▲ 5.4	1.9	6.1	0.1	6.4
入院時食事療養	0.1	▲ 6.8	▲ 9.1	▲ 7.1	▲ 5.7	▲ 5.1	▲ 4.4	▲ 3.0	▲ 4.2	3.7
生活療養食事療養	▲ 0.8	▲ 1.9	▲ 2.6	▲ 3.0	▲ 2.8	▲ 2.9	▲ 2.4	▲ 2.1	▲ 2.0	0.7
生活療養環境療養	▲ 0.2	▲ 1.8	▲ 2.5	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 2.9	▲ 2.5	▲ 2.3	▲ 2.2	0.2
その他	▲ 0.4	▲ 5.5	20.7	12.5	▲ 21.3	54.0	▲ 7.6	94.0	▲ 5.6	0.0



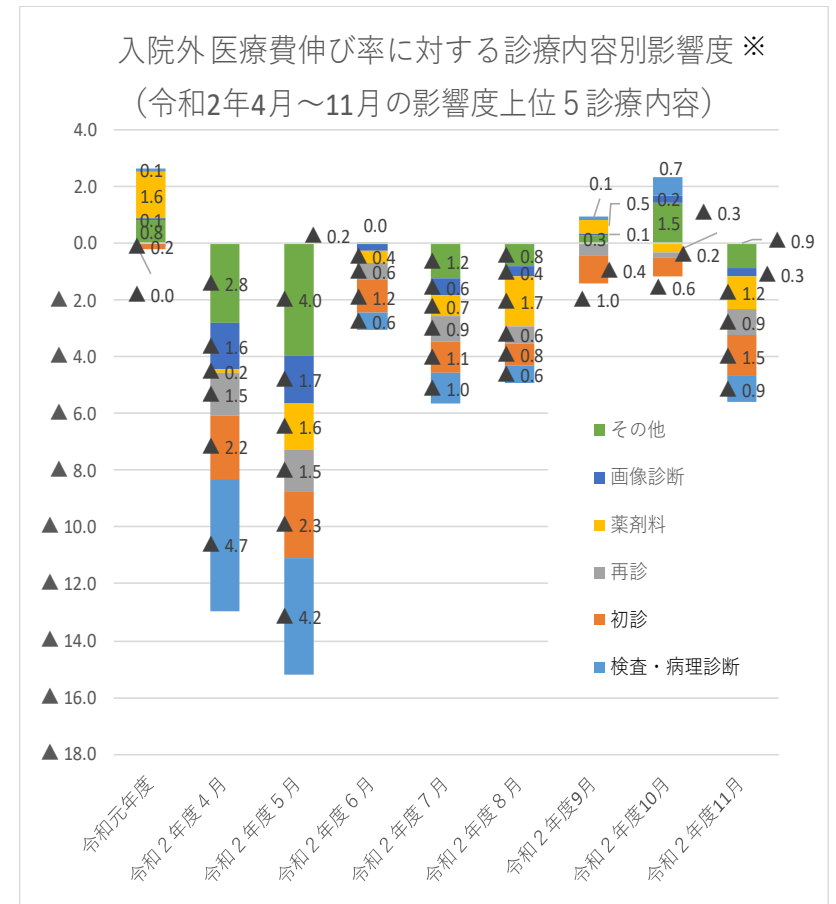
※影響度は(各診療内容の医療費の増減分)÷(前期の医療費総数)×100で算定

■ : 下位5診療内容 (減少幅が大きい) ※その他除く ■ : 上位5診療内容

電子レセプトを用いた医科医療費の分析 令和2年4月～11月 ③-2 診療内容別 入院外

- 診療内容別に医療費の伸び率を見ると、依然として「初診」の減少幅が大きい。
- 医療費全体の伸び率に対する影響度で見ると、「初診」「薬剤料」のマイナスが大きく影響している。

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月	令和元年度 医療費の 構成割合
総数	2.5	▲ 13.0	▲ 15.2	▲ 3.0	▲ 5.6	▲ 4.9	▲ 0.5	1.2	▲ 5.6	100.0
初診	▲ 2.9	▲ 42.6	▲ 41.3	▲ 21.0	▲ 21.3	▲ 15.6	▲ 19.1	▲ 12.1	▲ 26.3	5.4
再診	▲ 0.3	▲ 16.5	▲ 17.3	▲ 7.3	▲ 10.2	▲ 7.3	▲ 5.0	▲ 2.4	▲ 10.5	8.7
医学管理	0.4	▲ 11.8	▲ 15.2	▲ 4.8	▲ 4.5	▲ 3.1	▲ 1.2	6.5	▲ 1.0	8.3
在宅	4.7	4.3	2.4	9.9	5.5	7.3	8.4	10.2	9.2	6.1
投薬	▲ 4.4	▲ 13.0	▲ 15.0	▲ 5.3	▲ 8.4	▲ 6.2	▲ 5.4	▲ 3.1	▲ 10.8	1.2
注射	▲ 0.7	▲ 15.1	▲ 15.2	▲ 3.4	▲ 9.1	▲ 9.4	▲ 1.8	▲ 5.0	▲ 6.9	0.7
処置	3.0	▲ 4.5	▲ 6.5	2.4	▲ 2.8	▲ 3.1	▲ 0.0	▲ 0.8	▲ 5.6	8.7
手術・麻酔	5.2	▲ 9.0	▲ 21.7	▲ 1.0	▲ 6.8	▲ 3.7	▲ 1.4	7.0	▲ 1.8	2.8
検査・病理診断	0.8	▲ 25.1	▲ 22.5	▲ 3.1	▲ 5.7	▲ 3.3	0.5	3.7	▲ 4.8	18.4
画像診断	0.7	▲ 23.0	▲ 23.5	▲ 3.3	▲ 8.3	▲ 5.5	0.8	3.2	▲ 3.8	6.9
処方箋料	0.5	▲ 13.1	▲ 15.6	▲ 5.9	▲ 8.1	▲ 6.3	▲ 4.9	▲ 2.1	▲ 10.7	4.8
リハビリテーション	1.0	▲ 20.4	▲ 21.7	▲ 0.7	▲ 5.4	▲ 2.8	1.6	9.0	0.2	1.5
精神科専門療法	1.1	▲ 13.3	▲ 14.1	▲ 0.2	▲ 6.1	▲ 6.0	0.4	5.4	▲ 4.3	2.2
放射線治療	5.6	7.0	▲ 6.4	▲ 1.4	▲ 9.0	▲ 2.7	13.5	0.9	▲ 3.7	0.6
薬剤料	7.6	▲ 0.7	▲ 7.2	▲ 1.9	▲ 3.2	▲ 7.3	2.2	▲ 1.3	▲ 5.2	22.7
特定保険医療材料	4.8	0.8	1.8	8.6	6.2	▲ 1.1	13.5	8.1	0.7	1.0
その他	13.7	16.7	▲ 12.2	▲ 21.4	▲ 4.1	16.7	▲ 3.7	41.1	▲ 0.8	0.0



※影響度は(各診療内容の医療費の増減分) ÷ (前期の医療費総数) × 100で算定

■ : 下位5診療内容 (減少幅が大きい) ※その他除 ■ : 上位5診療内容

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 ＜令和2年4月～11月＞

調剤医療費の動向（調剤メディアス）の月次報告については、メディアスとともに厚生労働省のホームページ上で令和元年度分まで公表しているが、この度、令和2年度の診療報酬改定に伴うシステム改修が完了しとりまとめることができたため、令和2年4月～11月分の一部を報告する。
レセプト電算処理システムにより処理された調剤報酬明細書（電子レセプト）を用いて集計、調剤医療費の動向について詳細を分析。

- 調剤医療費の伸び率に寄与する薬剤料の伸び率については、処方箋枚数の伸び率がマイナスで推移する一方で、処方箋1枚当たり薬剤料の伸び率はプラスで推移しており、結果として多くの月でマイナスとなっている。
- 薬剤料の伸び率を薬効分類別に見ると、処方箋枚数の減少により、多くの薬効分類で減少しており、特に「呼吸器官用薬」「抗生物質製剤」「化学療法剤」などの減少幅が大きい。
- 処方箋1枚当たり薬剤料の伸び率を薬効分類別で見ると、「呼吸器官用薬」「抗生物質製剤」など一部は減少しているものの、全体的には増加傾向にあり、影響度で見ると、「腫瘍用薬」「その他の代謝性医薬品」のプラスの影響が大きい。
- 後発医薬品割合（数量ベース）は令和2年11月時点で 81.7% 。

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和2年4月～11月 ① 調剤医療費・薬剤料の伸び率の推移

- 調剤医療費（電算処理分）の伸び率への影響として、大きくは 技術料 と 薬剤料 に分けることができる。
- 薬剤料の伸び率については、処方箋枚数の伸び率がマイナスで推移する一方で、処方箋1枚当たり薬剤料の伸び率はプラスで推移しており、結果として、多くの月でマイナスとなっている。

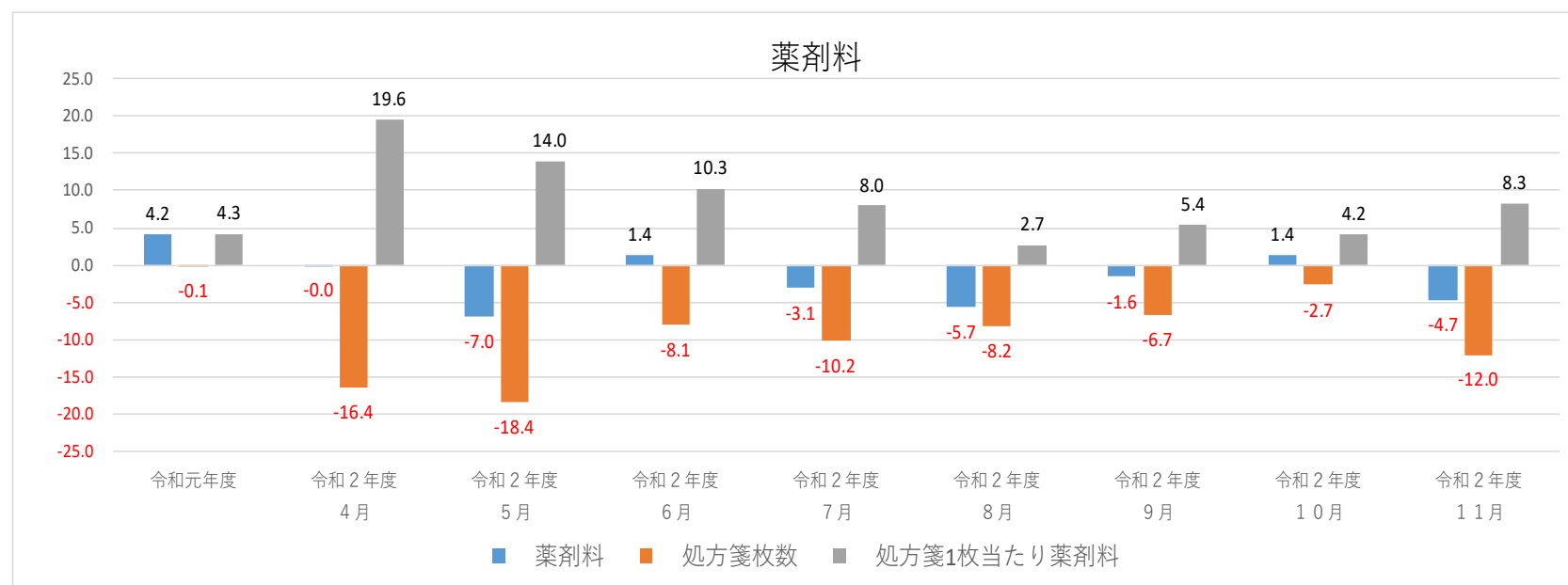
■ 調剤医療費（電算処理分）の伸び率 影響度

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月
調剤医療費（電算処理分）	3.7	-2.9	-8.7	0.1	-3.6	-5.3	-1.7	1.1	-5.6
技術料	0.6	-2.9	-3.6	-0.9	-1.4	-1.1	-0.5	0.1	-2.2
薬剤料	3.1	-0.0	-5.2	1.0	-2.3	-4.2	-1.2	1.0	-3.4

■ 薬剤料の伸び率

薬剤料	4.2	-0.0	-7.0	1.4	-3.1	-5.7	-1.6	1.4	-4.7
処方箋枚数	-0.1	-16.4	-18.4	-8.1	-10.2	-8.2	-6.7	-2.7	-12.0
処方箋1枚当たり薬剤料	4.3	19.6	14.0	10.3	8.0	2.7	5.4	4.2	8.3



電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和2年4月～11月 ② 薬効分類別 薬剤料

- 4月～11月にかけて、薬剤料は多くの薬効分類で減少しており、特に「呼吸器用薬」「抗生物質製剤」「化学療法剤」などの減少幅が大きく、伸び率への影響を見ると、「循環器用薬」のマイナスの影響も大きい。
- 一方、「腫瘍用薬」や「その他の代謝性医薬品」などは増加しており、伸び率への影響も大きい。

■ 薬効分類別薬剤料伸び率 (単位：%) (単位：%)

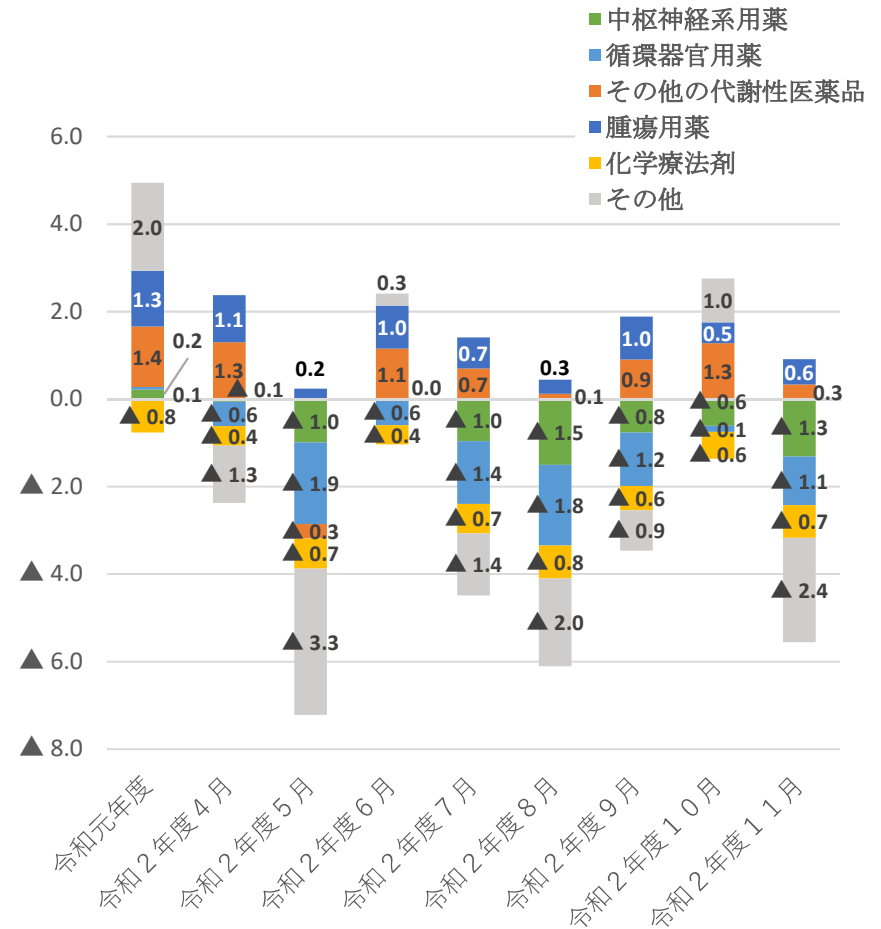
	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月	令和元年度 薬剤料の 構成割合
総数	4.2	▲ 0.0	▲ 7.0	1.4	▲ 3.1	▲ 5.7	▲ 1.6	1.4	▲ 4.7	100.0
中枢神経系用薬	1.4	▲ 0.4	▲ 6.6	0.1	▲ 6.4	▲ 9.9	▲ 5.1	▲ 4.1	▲ 8.8	14.8
感覚器用薬	▲ 2.0	▲ 14.4	▲ 9.3	0.2	▲ 4.3	▲ 2.9	▲ 1.4	1.5	6.9	3.9
循環器用薬	0.4	▲ 3.6	▲ 12.0	▲ 3.9	▲ 9.2	▲ 11.8	▲ 7.9	▲ 0.9	▲ 7.5	15.0
呼吸器用薬	3.1	▲ 10.9	▲ 23.8	▲ 17.9	▲ 17.4	▲ 17.4	▲ 16.5	▲ 13.0	▲ 22.9	3.4
消化器用薬	6.4	2.8	▲ 5.2	3.9	0.9	▲ 1.6	3.5	7.6	0.9	7.4
ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	8.7	12.5	3.2	7.8	▲ 0.4	▲ 0.7	2.1	3.9	▲ 2.2	4.3
泌尿生殖器および肛門用薬	▲ 3.7	▲ 5.3	▲ 11.0	▲ 1.4	▲ 7.8	▲ 10.8	▲ 5.9	0.7	▲ 4.5	2.3
外皮用薬	1.3	▲ 8.2	▲ 9.1	1.0	▲ 4.7	▲ 2.6	▲ 2.9	4.7	▲ 2.2	3.1
ビタミン剤	5.2	1.1	▲ 3.6	6.0	0.9	▲ 18.8	▲ 21.9	▲ 23.1	▲ 28.7	1.8
滋養強壮薬	4.7	6.9	0.7	8.9	4.0	0.9	8.8	5.5	3.1	1.0
血液・体液用薬	6.0	▲ 2.9	▲ 10.8	▲ 1.7	▲ 5.5	▲ 7.4	▲ 3.5	1.5	▲ 5.9	7.3
その他の代謝性医薬品	9.8	9.0	▲ 2.2	7.7	4.7	0.8	6.0	8.5	2.2	14.8
腫瘍用薬	19.5	15.2	3.2	13.5	9.6	4.2	13.1	6.0	7.8	7.5
アレルギー用薬	2.7	▲ 17.6	▲ 11.1	▲ 4.6	▲ 8.2	▲ 6.9	▲ 9.6	4.2	▲ 8.5	3.9
漢方製剤	5.4	1.9	▲ 3.8	5.1	1.8	2.0	5.5	7.6	▲ 0.9	2.2
抗生物質製剤	▲ 6.4	▲ 33.0	▲ 42.4	▲ 32.3	▲ 27.2	▲ 26.3	▲ 25.9	▲ 19.2	▲ 28.9	1.0
化学療法剤	▲ 15.7	▲ 12.1	▲ 18.3	▲ 11.2	▲ 17.0	▲ 19.6	▲ 14.3	▲ 15.5	▲ 19.4	3.9
生物学的製剤	29.3	30.4	10.8	14.0	6.2	8.0	12.2	2.7	5.3	1.1

※表示していない薬効分類があるため、構成割合の数値を足し上げても総数と一致しない

▲ : 下位5薬効分類(減少幅が大きい) ※不詳除く

▲ : 上位5薬効分類

薬剤料伸び率に対する薬効分類別影響度
(令和2年4月～11月の影響度上位5疾病分類)



※影響度は(各薬効分類の薬剤料の増減分) ÷ (前期の薬剤料総数) × 100で算定

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和2年4月～11月 ③ 薬効分類別 処方箋1枚当たり薬剤料

- 処方箋1枚当たり薬剤料の伸びをみると、「呼吸器用薬」「抗生物質製剤」などは減少しているものの、全体的には増加傾向にある。
- 8月にマイナスに転じている薬効分類がいくつかあるが、これは後発品の収載の影響が大きいと考えられる。
- 薬効分類別の影響度を見ると、「腫瘍用薬」「その他の代謝性医薬品」のプラスの影響が大きい。

■ 薬効分類別処方箋1枚あたり薬剤料伸び率 (単位: %)

	令和元年度	令和2年度 4月	令和2年度 5月	令和2年度 6月	令和2年度 7月	令和2年度 8月	令和2年度 9月	令和2年度 10月	令和2年度 11月	令和元年度 薬剤料の 構成割合
総数	4.3	19.6	14.0	10.3	8.0	2.7	5.4	4.2	8.3	100.0
中枢神経系用薬	1.5	19.1	14.4	8.9	4.3	▲ 1.9	1.7	▲ 1.4	3.6	14.8
感覚器用薬	▲ 2.0	2.4	11.1	9.0	6.6	5.8	5.7	9.5	9.9	3.9
循環器用薬	0.5	15.3	7.8	4.6	1.2	▲ 4.0	▲ 1.3	1.8	5.1	15.0
呼吸器用薬	3.2	6.5	▲ 6.7	▲ 10.7	▲ 8.0	▲ 10.1	▲ 10.6	▲ 10.6	▲ 12.4	3.4
消化器用薬	6.5	22.9	16.2	13.1	12.4	7.2	10.8	10.5	14.7	7.4
ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	8.8	34.5	26.5	17.2	11.0	8.1	9.4	6.8	11.1	4.3
泌尿生殖器官および肛門用薬	▲ 3.7	13.2	9.1	7.2	2.7	▲ 2.9	0.8	3.4	8.5	2.3
外皮用薬	1.3	9.8	11.4	9.9	6.2	6.0	4.0	7.6	11.1	3.1
ビタミン剤	5.2	20.9	18.1	15.4	12.4	▲ 11.5	▲ 16.3	▲ 21.0	▲ 19.0	1.8
滋養強壮薬	4.8	27.8	23.4	18.5	15.9	9.8	16.5	8.4	17.1	1.0
血液・体液用薬	6.1	16.1	9.3	7.0	5.3	0.8	3.3	4.3	6.9	7.3
その他の代謝性医薬品	9.9	30.4	19.8	17.2	16.6	9.7	13.6	11.5	16.1	14.8
腫瘍用薬	19.6	37.8	26.4	23.5	22.1	13.5	21.1	8.9	22.4	7.5
アレルギー用薬	2.7	▲ 1.5	8.9	3.8	2.3	1.4	▲ 3.1	7.1	3.9	3.9
漢方製剤	5.5	21.8	17.8	14.3	13.4	11.1	13.0	10.5	12.5	2.2
抗生物質製剤	▲ 6.3	▲ 19.9	▲ 29.5	▲ 26.4	▲ 18.9	▲ 19.7	▲ 20.6	▲ 16.9	▲ 19.2	1.0
化学療法剤	▲ 15.7	5.1	0.1	▲ 3.4	▲ 7.6	▲ 12.5	▲ 8.2	▲ 13.2	▲ 8.4	3.9
生物学的製剤	29.4	56.0	35.7	24.0	18.3	17.6	20.2	5.5	19.7	1.1

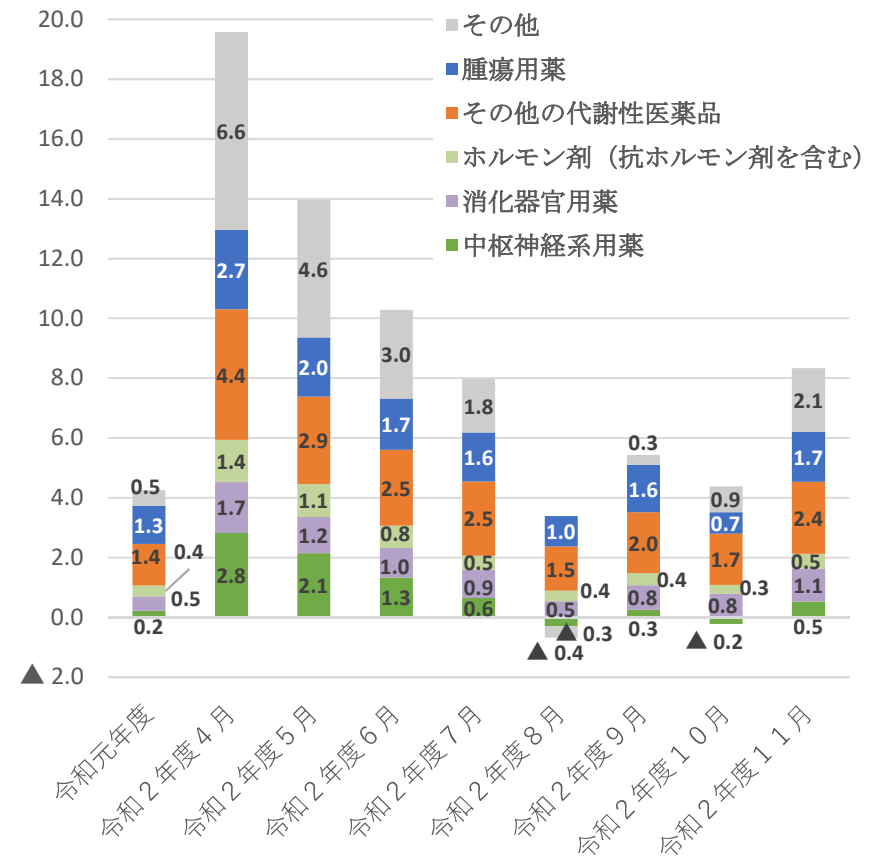
※表示していない薬効分類があるため、構成割合の数値を足し上げても総数と一致しない

■ : 下位5薬効分類 (減少幅が大きい) ※不詳除く

■ : 上位5薬効分類

処方箋一枚当たり薬剤料伸び率に対する薬効分類別影響度

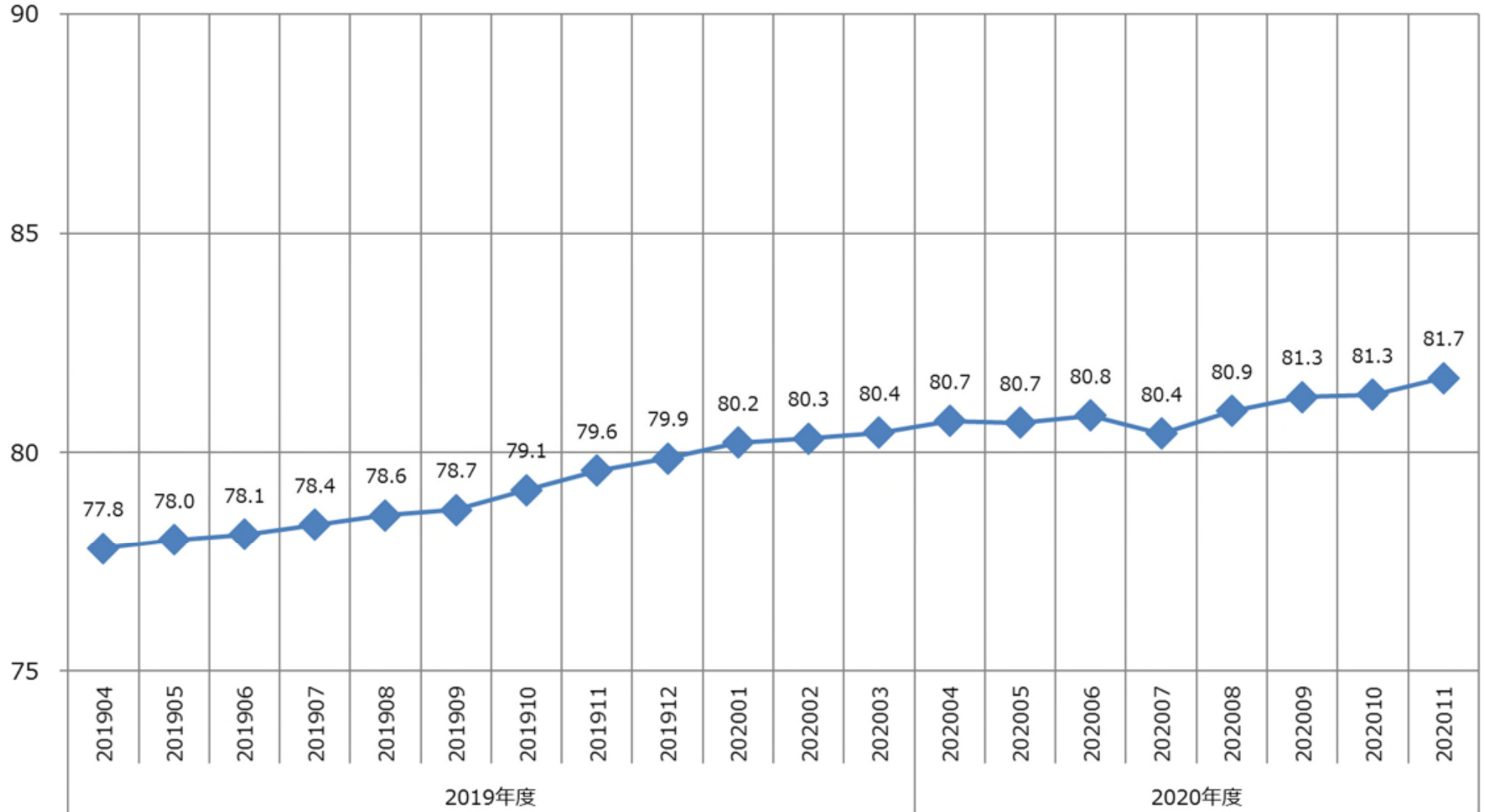
(令和2年4月～11月の影響度上位5疾病分類)



※影響度は (各薬効分類の薬剤料の増減分) ÷ (前期の薬剤料総数) × 100 で算定

電子レセプトを用いた調剤医療費の分析 令和2年4月～11月 ④後発医薬品割合（数量ベース）の推移

- 後発医薬品割合（数量ベース、新指標）は、令和2年11月時点で81.7%。
- 令和2年7月にわずかに下がっているが、後発品の収載により「後発品のある先発品」が増えたことが要因と考えられる。



注1) 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

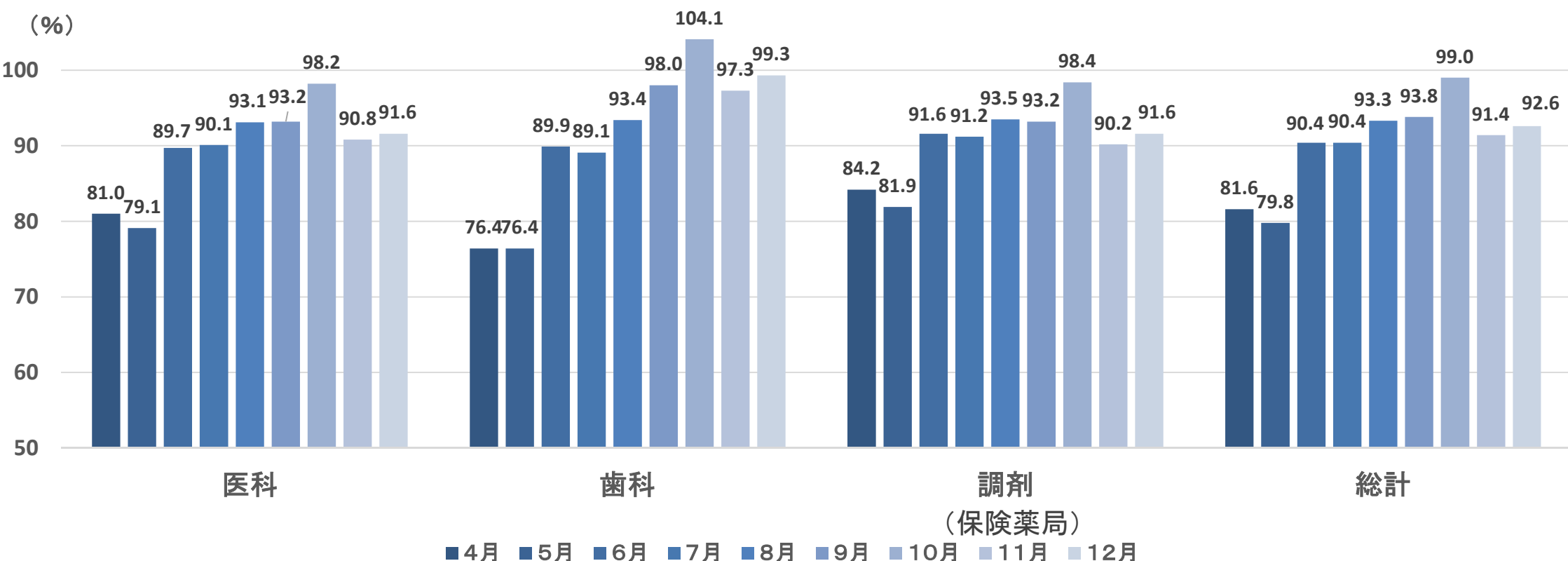
注2) 「後発医薬品割合（数量ベース）」は、 $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$ で算出している。

レセプト件数・点数に関する調査

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化①（診療種別）

○ レセプト件数の前年同月比で見ると、4月、5月に医科、歯科、調剤いずれにおいても、大幅に減少が見られた。6月以降下げ幅に回復がみられたものの、前年同月比を下回っている。

診療種別レセプト件数の前年同月比



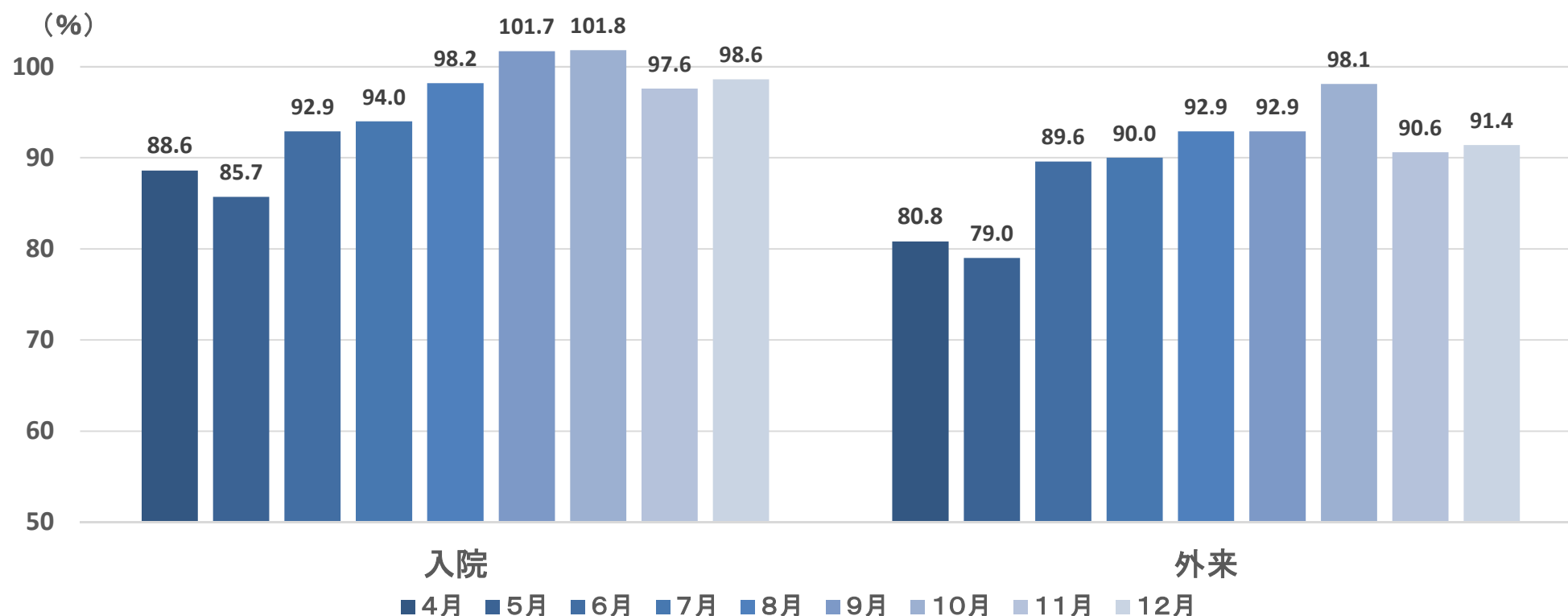
※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

※2 総計には、訪問看護療養費が含まれる。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化②（医科のうち入院・外来別）

○ レセプト件数の前年同月比で見ると、入院、外来ともに減少しているが、外来の減少幅の方が大きい。双方とも6月には下げ幅に回復がみられ、入院の方が回復傾向にある。

医科のうち入院・外来別レセプト件数の前年同月比

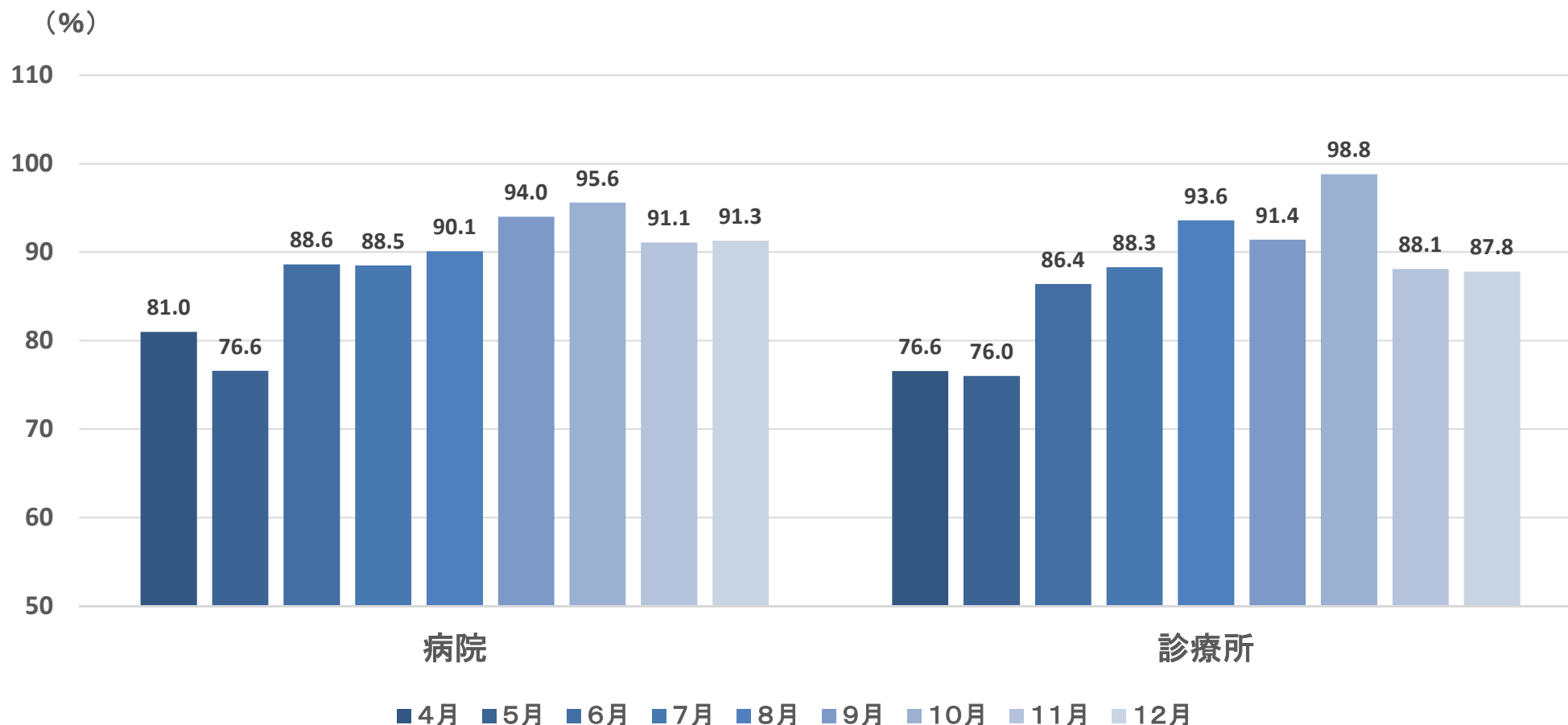


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化③（医科のうち病院・診療所別）

○ レセプト件数の前年同月比で見ると、4月以降、病院も診療所も減少しているが、6月には下げ幅に回復がみられた。

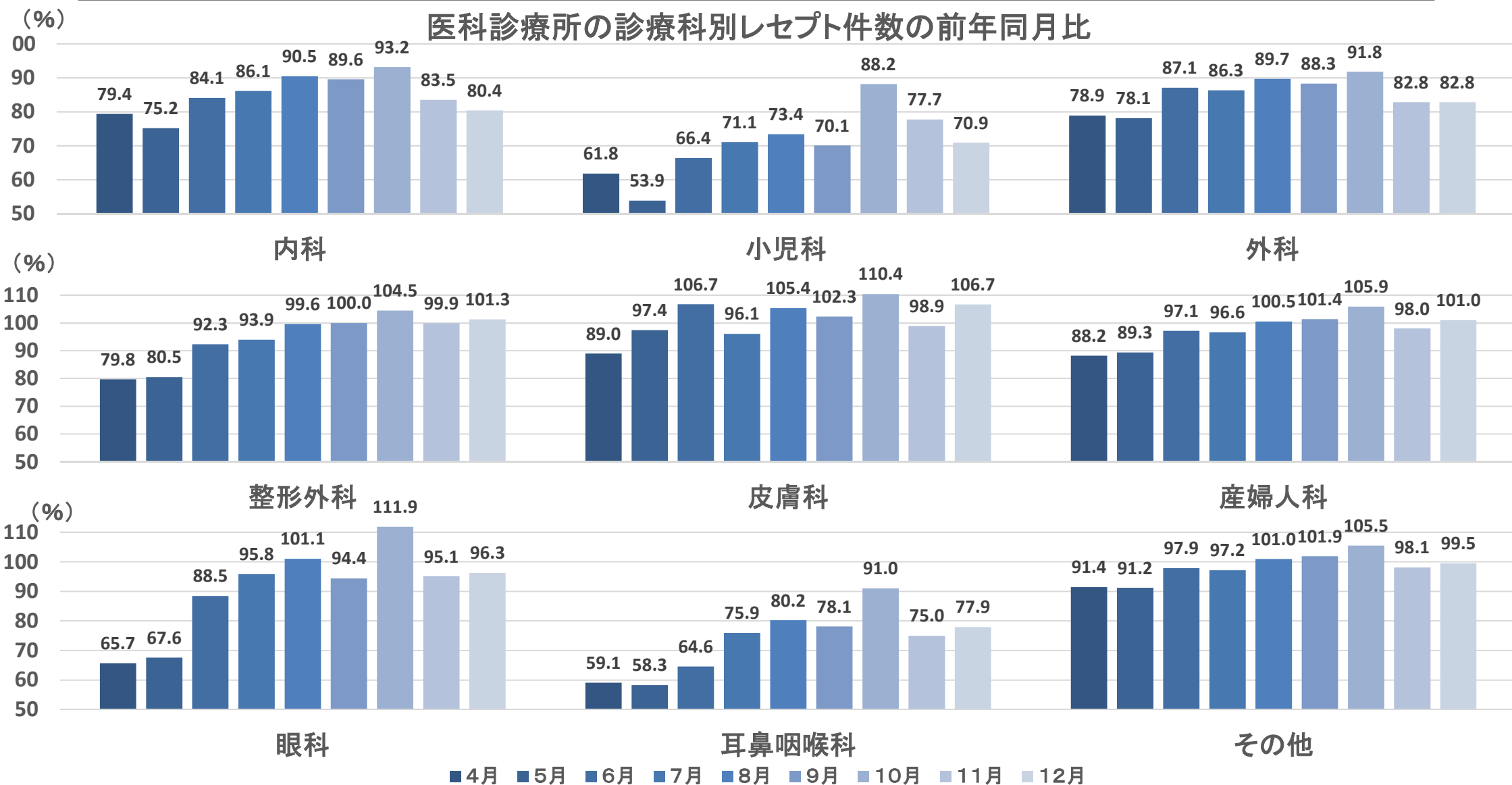
医科のうち病院・診療所別レセプト件数の前年同月比



※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報によるレセプト件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。
 ※2 再審査等の調整前の数値。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化④（医科診療所の診療科別）

○ レセプト件数の前年同月比で見ると、4月、5月は、いずれの診療科も減少しているが、小児科、耳鼻咽喉科の減少が顕著。6月には下げ幅に回復がみられたが、診療科ごとにバラツキがある。

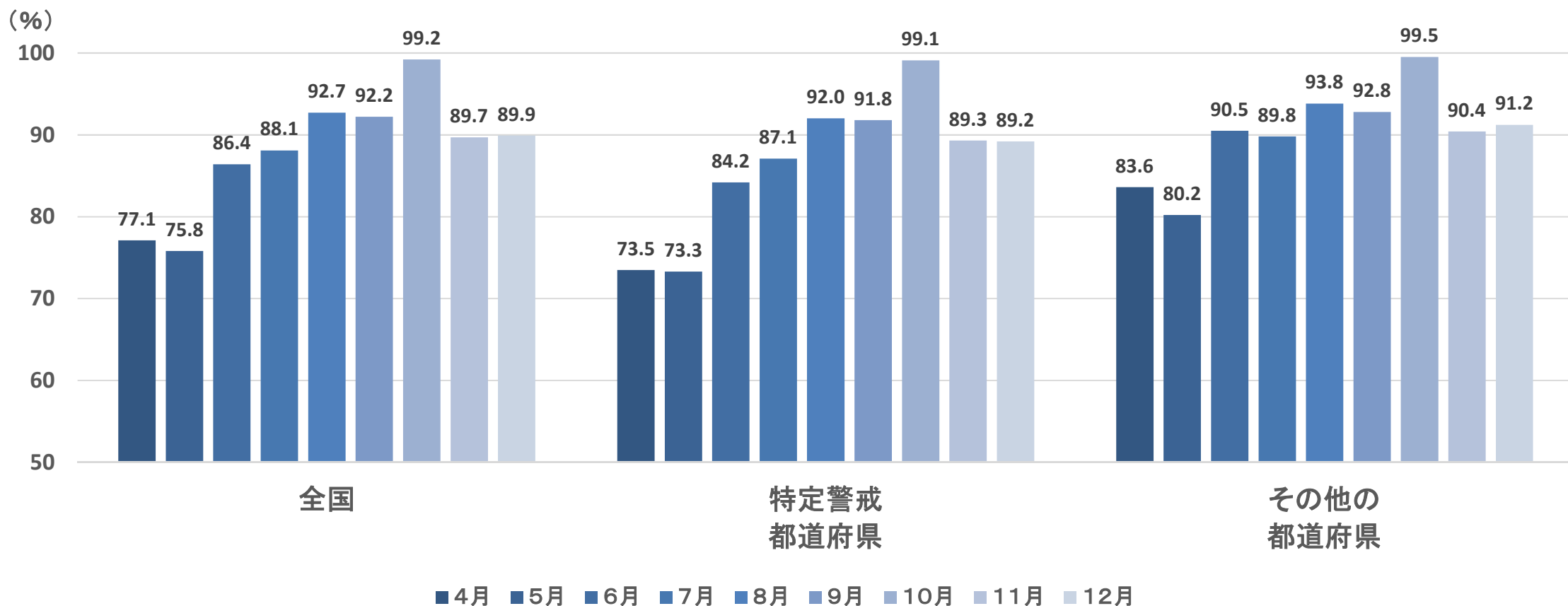


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報によるレセプト件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。
 ※2 再審査等の調整前の数値。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の患者数の変化⑤（地域別）

○ 地域別のレセプト件数の前年同月比で見ると、4月以降は、特定警戒都道府県の方が、減少幅が大きい。双方とも6月には下げ幅に回復がみられ、地域別の差も小さくなった。

地域別レセプト総件数の前年同月比

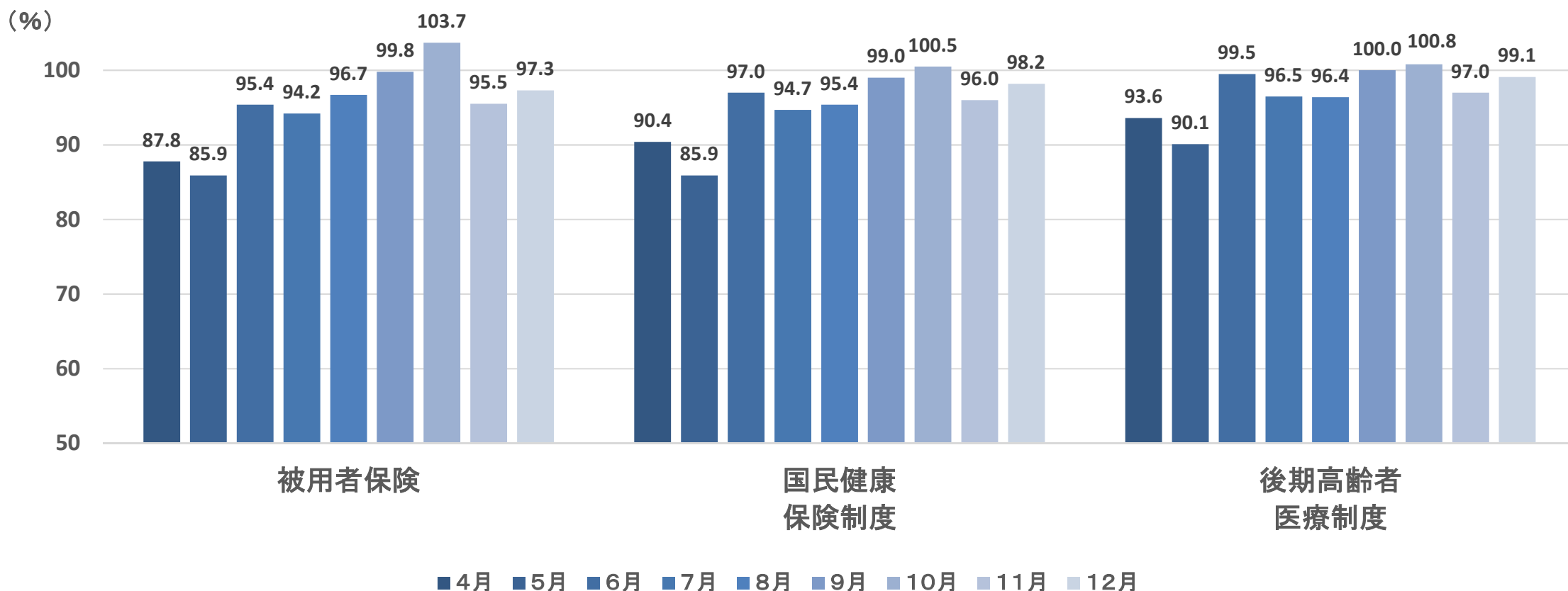


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報によるレセプト件数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。
 ※2 特定警戒都道府県とは、4月16日に対策本部が、特に重点的に感染拡大防止の取組を進めていく必要があると位置づけた13の都道府県。
 （北海道・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・岐阜・愛知・石川・京都・大阪・兵庫・福岡）

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化①（制度別）

○ 制度別にレセプト点数を前年同月比で見ると、後期高齢者医療制度の減少幅が相対的に小さい。なお、いずれの制度においても4月、5月と大きく減少したが、6月以降は、減少幅に回復がみられた。

制度別レセプト総点数の前年同月比

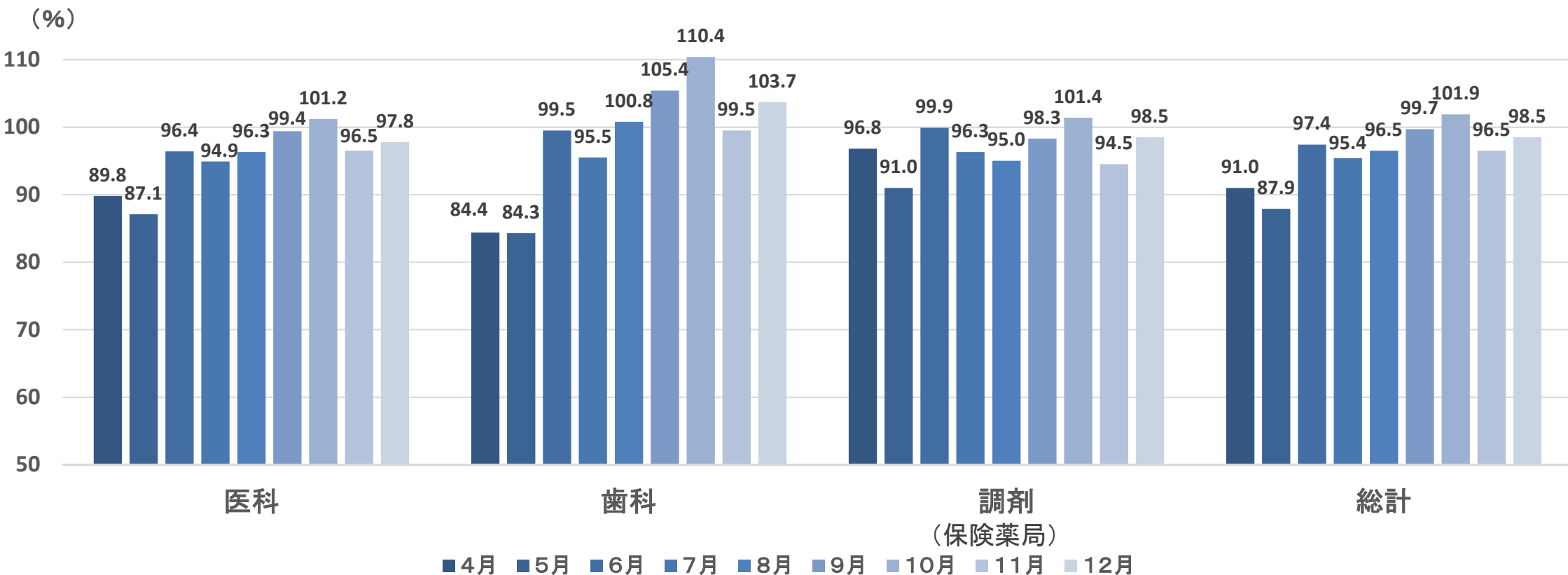


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化②（診療種類別）

○ レセプト点数の前年同月比で見ると、4月は医科、歯科、調剤において大きく減少が見られた。6月には下げ幅に回復がみられた。

診療種類別総点数の前年同月比



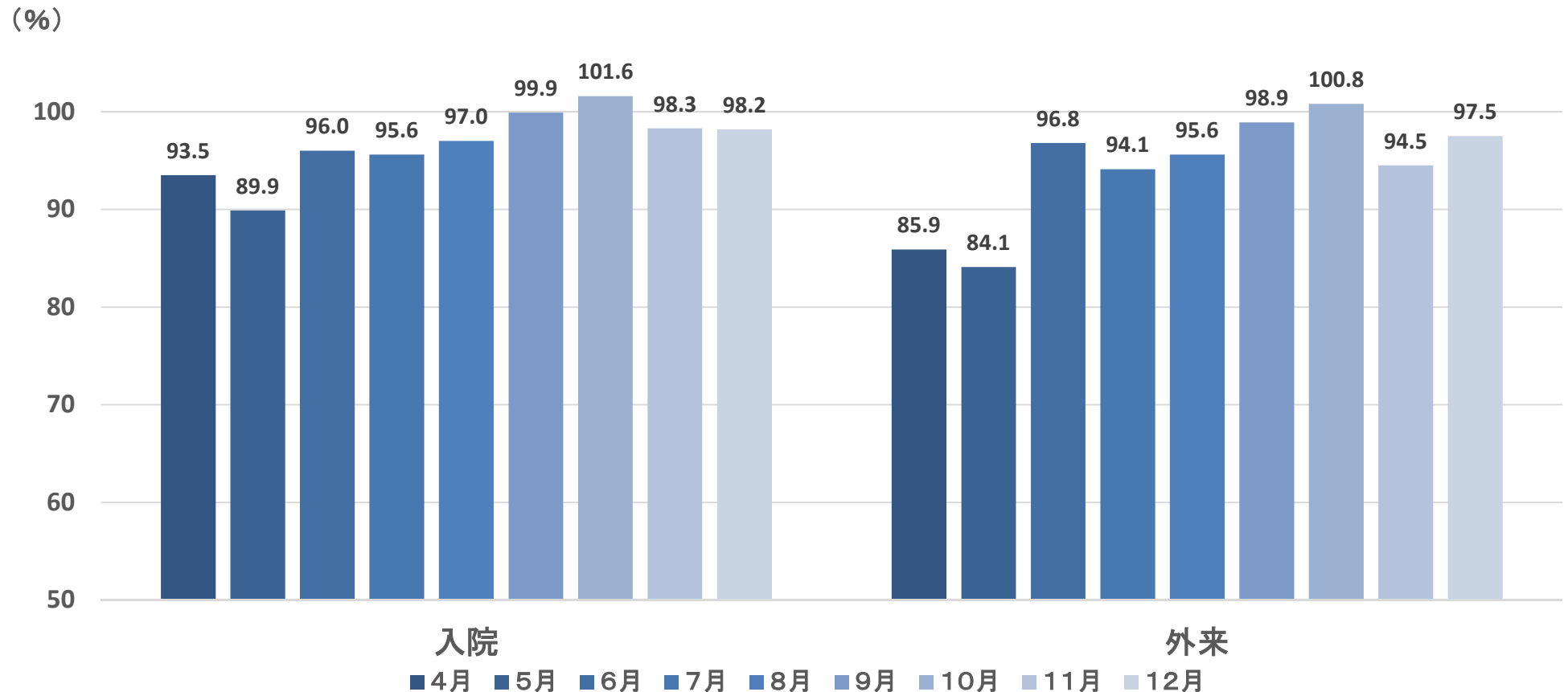
※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

※2 総計には、食事・生活療養費、訪問看護療養費が含まれる。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化③（医科のうち入院・外来別）

○ レセプト点数の前年同月比で見ると、4月以降は、入院、外来ともに減少している。双方とも6月には下げ幅に回復がみられた。

医科のうち入院・外来別点数の前年同月比

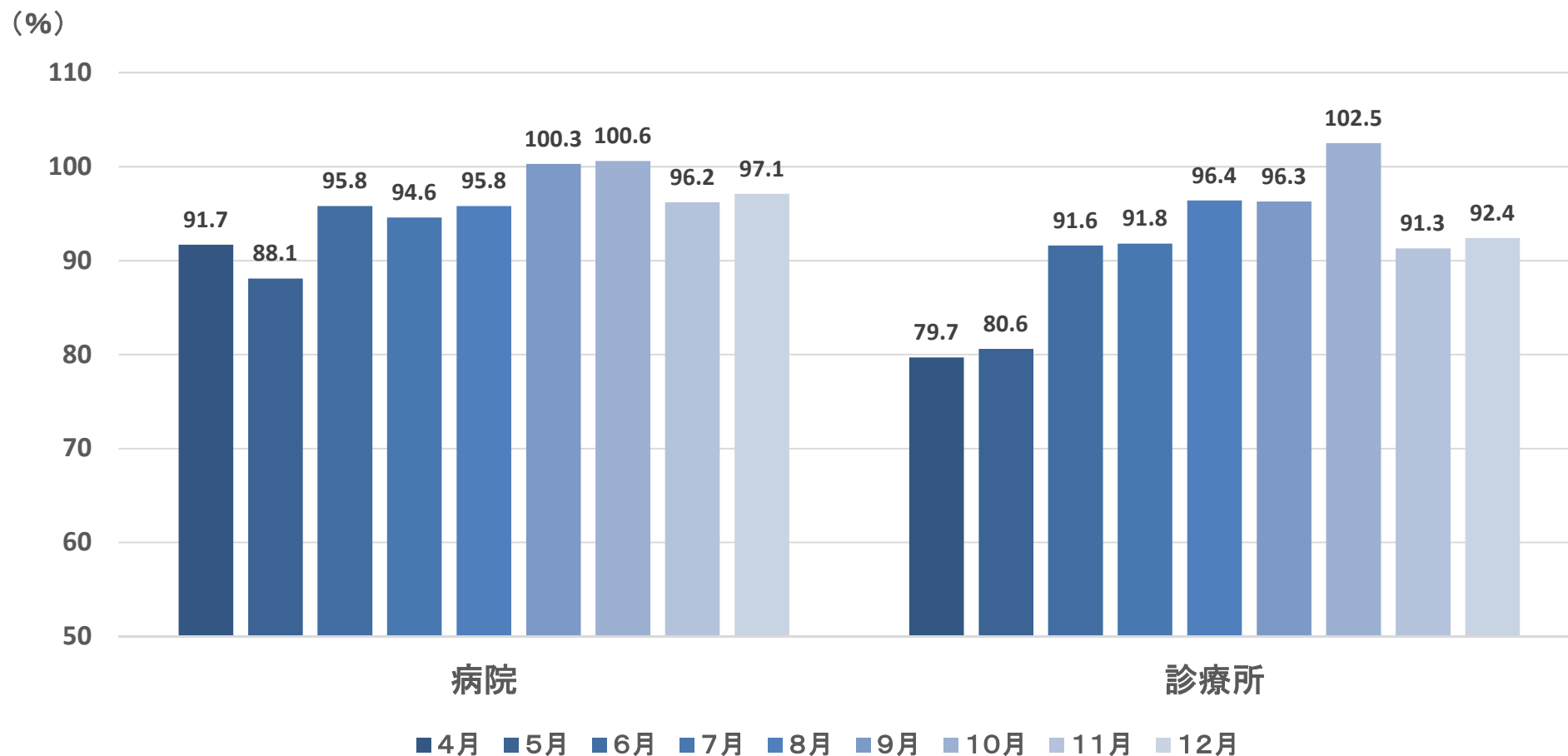


※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報及び国民健康保険中央会ホームページの国保連合会審査支払業務統計によるレセプトの確定点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化④（医科のうち病院・診療科別）

○ レセプト点数の前年同月比で見ると、4月以降は、病院も診療所も減少しているが、診療所の減少の方が大きい。双方とも6月には下げ幅に回復がみられ、病院の方が回復傾向にある。

医科のうち病院・診療所別点数の前年同月比



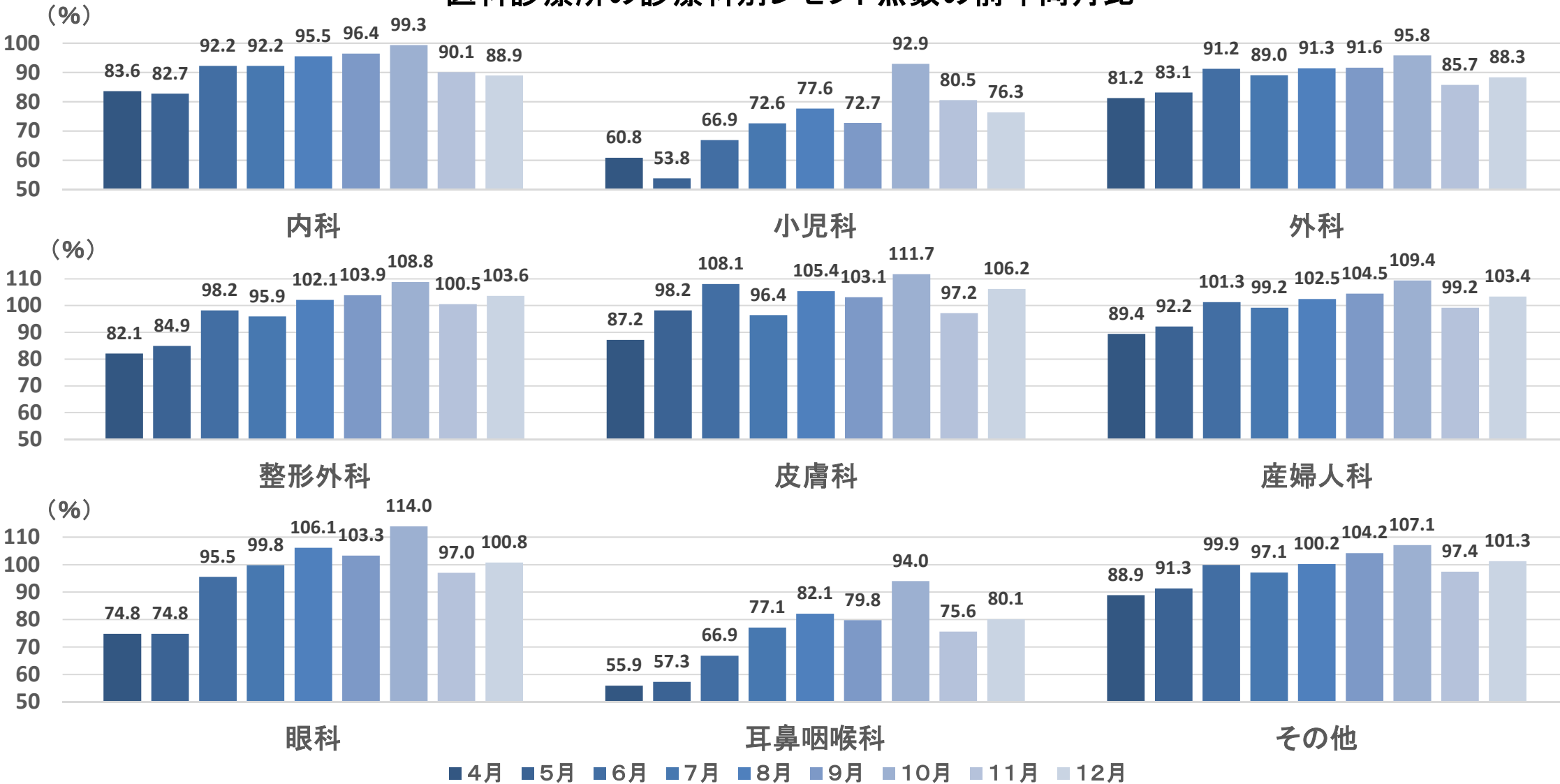
※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報による点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。

※2 再審査等の調整前の数値。

新型コロナウイルス感染症による医療機関の収入の変化⑤（医科診療所の診療科別）

○ レセプト点数の前年同月比で見ると、4月以降は、いずれの診療科も減少しているが、耳鼻咽喉科、小児科の減少が顕著。6月には下げ幅に回復がみられたが、診療科ごとにバラツキがある。

医科診療所の診療科別レセプト点数の前年同月比



※1 社会保険診療報酬支払基金ホームページの統計月報による点数を基に、厚生労働省で前年同月比を機械的に算出。
 ※2 再審査等の調整前の数値。